

資料

周作人・松枝茂夫往来書簡 戦後篇

小川利康編

戦前篇に続き、本号では戦後再開された往復書簡（一九五四年～六五年）を掲載する。

一九四四年十一月を最後に周作人からの書簡は途絶えた。翌四五年八月に日本が無条件降伏すると、満州国も消滅し、北京を支配する傀儡政権として機能してきた北平政務委員会も解散となった。入れ替わりに北京を支配下に置いた国民党は北京のあらゆる組織を接収するとともに、対日協力者を「漢奸」として拘束し始めた。当時、傀儡政権下で大臣に相当する教育督弁まで務めた周作人も例外ではありえず、同年十二月六日、北平炮局胡同監獄に収監された。翌四六年五月には南京老虎橋監獄へ移管され、以後三年弱の間、周作人は首都高等法院で公判に出廷しながら、獄中生活を送った。当時の生活の様子や心情を述べた旧体詩は後に『老虎橋雑詩』にまとめられている。

四九年一月、国民党政府瓦解による混乱のなか、尤炳圻の援助で、周作人は辛くも獄を脱し、上海で共産党政権の趨勢を見極めた後、八月によく北京へ帰還する。再び獄に繋がれる可能性も含め、懸念材料は少なくなかつ

だが、この頃には身の安全が確信できるようになったためと思われる。以後、鲁迅研究資料提供者、文学翻訳家として執筆活動を続けることになるが、「漢奸」としての汚名が生前雪がれることはついになかった。

松枝茂夫にとつても、戦後の生活は容易ではなかった。書簡でも述べるように、九州大学から東京大学へ招かれたものの、妻を亡くしたため、再び郷里へと舞い戻る。帰省は残された子供達の養育のためだったが、岩波書店の援助の下、二年がかりでついに念願の『紅樓夢』全訳を果たす。その後、新たな伴侶ナヲ夫人を得て、五二年再び東京へ戻り、都立大学教授に迎えられた。当時東京は住宅難であったため、適当な住まいが見つからず、当初は鎌倉腰越から大学に通った。その後、目黒碑文谷を経て、終の棲家となる杉並本天沼に越したのは五七年のことだった。

敗戦後の日本は共産党政権下の中国と国交断絶状態にあり、中国国内の消息は余り伝わらず、周作人の安否も杳として知れない。松枝茂夫も周作人の身の上を案じつつも、手紙を出すことは躊躇われた。

その状況を変える転機となったのは五三年三月に刊行された『鲁迅的故家』（上海出版公司）であった。周遐寿というペンネームで出版された単行本ながら、その内容と文体は紛れもなく周作人のものだった。老虎橋監獄から出獄した後から、上海『亦報』に様々なペンネームを使って密かにコラムを発表していたが、それが周作人の手になると知るものはわずかだった。

松枝茂夫は、当時の驚きを書簡で「本屋で何の気なしに『鲁迅の故家』を求めてかえってよみ、一讀直ちに先生のお筆であることを『發見』して御健在を知り、喜びにたえず、幾晩か興奮して眠れなかった」（19550105Z）と述べるように、この書の出版は、周作人の生存証明ともなった。翌年四月にはその姉妹編『鲁迅小説裏的人物』（上海出版公司）が刊行された。それでも、日本の側から連絡を取るのには「まだ遠慮せねばなるまい」（同上）

と松枝は考え、手紙を出すことはなかった。

五年十二月、周作人は北京市法院で政治権（公民権）剥奪の宣告を受けた。これが周作人の対日協力問題に対して中華人民共和国政権が下した最終的な判断である。これとて周作人には承服できるものではなかったが、この判決が出たことで、状況が動き出したことも事実だった。『魯迅的故家』等の版元は全て上海出版公司等の私営企業だったが、年末になって、国営の人民文学出版社からギリシヤ文学のアリストパネス『福の神』翻訳を依頼され、以後「特約翻訳」として毎月二百元の給与を受けながら翻訳に従事することになった。⁽¹⁾ 当時の中国社会において、定収入が保証され、「単位」（所屬）が確定したことの意味は大きい。この後、周作人は生活上の問題点があれば編集担当者である王士菁を通じて「単位」に要望を出すことが可能になった。

この変化を踏まえ、周作人は柳存仁を通して、日本との交流の回復を試みた。戦後の窮乏生活のなかで周作人一家は経済的に困窮し、生涯かけて蒐集した書籍すらも売り払わねばならない状況にあったという。⁽²⁾ このため、翻訳に必要な資料が手元になく、翻訳を再開するには資料を入手する必要性に迫られていた。だが、国交断絶状態の日本と直接連絡するのは政治的リスクが大きい。そこで、当時香港に在住していた柳存仁（雨生）に仲介役を依頼した。香港には曹聚仁ら多くの知友がいたが、なかでも柳存仁は四十年代には大東亞文学者大会にも参加し、日本語にも通じており、最も適任と考えたようだ。この後、柳存仁がイギリス留学に旅立ってしまったからは、日本商社の香港支社に勤務する鮑耀明が柳に代わって細々とした買物を引き受けていた。

日本での書籍購入を依頼した相手は、さねとうけいしゅう（実藤恵秀）だった。さねとうは一九三八年より、外務省文化事業部特別研究員として中国北京で研究生生活を送ったことがあり、周作人とも面識があった。謹厳実直な学風に接していた周作人にとって、さねとうは安心して依頼できる人物であったに違いない。また、最も親しかつ

た松枝茂夫は、戦前から住所を転々としていたため、周作人からは連絡が取れなかったのだろう。そこで戦前から早稲田の教壇に立ち、連絡が取りやすかったさねとうに依頼したものと考えられる。

依頼を受けたさねとうは何度かのやりとりの後、周作人の遠慮を気遣い、松枝茂夫に購書依頼を取り次いだ。五年当時、松枝は東京都立大学教授を務めるかたわら、早稲田大学でも非常勤講師も務めており、さねとうとも頻繁に往来があった。かくて二人の書簡の往還は復活する。四四年に杜絶してから早くも十年の歳月が経過していた。

戦後の往復書簡の概要

戦後編は別表に掲げたように、書簡の数では戦前編を遙かに上回るが、その多くは松枝茂夫への購書依頼が中心を占め、長文の書簡は少ない。ところどころに、切手購入の依頼、また夫人のための女性雑誌購入の依頼があるものの、話題の中心は翻訳一色で、無味乾燥で精彩に欠ける。

戦後篇	松 枝	周作人	年 計
1954年		2通	2通
1955年	3通	11通	14通
1956年	6通	25通	31通
1957年	3通	15通	18通
1958年	1通	8通	9通
1959年	1通	18通	19通
1960年		5通	5通
1961年		4通	4通
1962年		1通	1通
1963年			
1964年		3通	3通
1965年	1通		1通
合 計	15通	92通	107通

恐らくは海外との通信内容が後日政治的な批判を招きかねないことを十分に自覚していたためであろう。柳存仁からも「周先生の手紙はご自身で保存するだけに止め、どうか公表しないでください。先生も要らざる面倒事に巻き込まれたくないので」(19541219Z)と最初に念を押している。さらに政治的なリスクだけでなく、戦後編全体を覆う周作人の筆致には、自身の境遇を明かしては松枝に要らざる心配をかけまいとする気配が強く感じられる。

例えば、五七年三月から五九年春頃までに高血圧で仕事が出来なかつた時期、周作人は病状をほとんど告げないまま、書簡の数だけが減少している(別表)。六〇二年四月八日に信子夫人が亡くなった際も松枝には通知していない。逝去直後の二十二日に松枝茂夫が受け取った手紙は、紅樓夢研究上の画期的発見を伝える新聞記事だった。二ヶ月遅れて朝日新聞紙上で鮑耀明の追悼文を読んで初めてその死を知った時、松枝の胸中はいかばかりであつたか。⁽⁴⁾戦後編書簡の行間から読み取れるものは戦前編よりも意外に多い。

一九五四年に古稀を迎えた周作人が六六年までの十三年間に完成させた翻訳は以下の通りである。六十年代に入ると、文化大革命前史というべき激しい政治闘争期にさしかかり、刊行されずに放置された作品も多い(カッコ内は特記するもの以外、すべて人民文学出版社初版の刊行年)。また刊行されても、周作人の意に反して注釈を削除されたり、改訳を余儀なくされたものもある。下記の書名は現在最も周作人の原稿を忠実に反映した『苦雨齋譯叢』(中国对外翻訳出版公司)に拠っている。

ギリシヤ文学⁽⁵⁾

『全譯伊索寓言集』(一九五五年刊)

『財神・希臘擬曲』(『財神』は『阿里斯托芬喜劇集』一九五七年刊に収録、『希臘擬曲』商務印書館一九三四年)

『歐里庇得斯悲劇集(上、中、下)』(一九五七年)

『希臘神話』(生前未刊、一九九九年)

『路吉阿諾斯對話集（上、下）』（生前未刊、一九九一年）

日本文学

『狂言選』（『日本狂言選』と題して一九五五年刊）

『浮世澡堂』（一九五八年刊）

『石川啄木詩歌集』（一九六二年刊）

『古事記』（一九六三年刊）

『枕草子』（生前未刊、『日本古代隨筆選』一九八八年刊初版に収録）

『浮世理髮館』（生前未刊、『浮世澡堂』一九八九年重版に収録）

『平家物語』【未完】（生前未刊、一九八四年刊）

松枝茂夫の許には翻訳のために必要な書籍の購入依頼が寄せられた。その中には原典テキストだけでなく、原典解釈に必要な研究書も含まれており、その数はゆうに百冊をこえる。現金での支払いが出来ない周作人としては書籍の等価交換を原則としており、松枝の側からも『魯迅全集』や紅学関連の書籍購入依頼があったものの、現実的には周作人側の依頼が圧倒的に上回っていた。松枝の側も、むしろそれで良しとし、『南方熊楠全集』など、周作人の興味を引きそうな書籍を紹介して贈ることさえあった。翻訳の望みが薄い江戸川柳や落語についても資料を北京に送り、会員制雑誌『近世庶民文化』を紹介したこともある。その結果、松枝を介して、狂言研究者の古川久や川柳研究者の岡田甫との交流にも恵まれた。『近世庶民文化』に掲載されたバレ句の解釈をめぐる二人の議論は書

信往還のなかで生まれた密かな楽しみであったに違いない。(6)

六一年、書簡の往来が激減する。春の書簡は『婦人画報』が「アメリカカンスタイルの文化を掲載し、安逸な生活を宣伝する」ものであるため中国税関で没収となったので、今後は送らないでほしいと知らせるものだった。恐らくは信子夫人ら家族の楽しみとなっていた冊子であろうが、厳しい政治闘争の時代の中では無用な危険を招くものとなってしまうた。

翌六二年は一通のみ、六三年はついに無音に終わった。六四年、急に北京からの書簡が九月、十月、そして十二月に陸續と届いた。九月は岩波版『鲁迅選集』の注記訂正、十月は東洋文庫『中国笑話選』落手の報告と訂正といずれも必要最低限のことだけを述べる簡潔な文章である。最後の十二月の書簡は訪中した目加田誠が残っていた手紙と松枝から託された『笑府』（内閣文庫の複製版）を受領したことを知らせるものだった。この年、目加田は訪中学術代表団の一員として北京を訪れたが、周作人との面談を希望しながら許可されなかった。(7) かつて五六年に鲁迅逝去二十周年記念会に日本から招聘を受けて参加した長與善郎、里見淳たちが自由に周作人、銭稻孫と面談できた五六年とは状況が全く異なっていた。(8)

最後となった書簡に「相変わらず『不真面目』なものだが」と断り書きをつけて「八十自寿詩」を贈ったのは、今生の別れを意識したからなのかも知れない。この詩に対する松枝の返札が書信往還を締めくくる一通となった。

笑うべし老翁八十に垂んとして、行為端的に童痴に似たり。

劇だ憐しみて独脚の山父を思い、青氈に幻作る野狸を羨む。

對話、時有つて鬼臉を装い、諧談、猶喜ぶ胡娑を撒くを。

低頭して只顧ら游戲を貪り、忘却す斜陽の土堆に上るを。(松枝茂夫訳)(9)

最後の句「忘却斜陽土土堆」は痛切である。松枝の解釈に拠れば、高齡の周作人が「読書を貪って人生の斜陽の西山に近づくのを忘れた」となる。齡八十の高齡を迎え、死期を逃したという悔恨は、この後の文化大革命に至る余りにも過酷な日々を経て、一層深まったに違いない。

松枝の返札の手紙を受け取った翌月（六五年二月）、予てから念願としていた『ルキアノス対話集』の翻訳を完成させ、知人宛の書簡で周作人は次のように述べる。

長らく翻訳しなかった本が今日ついに完成しました。ギリシヤのルキアノスの『対話』二十篇で、合計で四十七、八万字あり、これこそ私の四十年来の宿願で、（旧曆の）昨年うちに完成しました。いつ出版されるか目下まだ言えませんが、私の宿願は果たし、あの後漢の末のギリシヤの作家に対する紹介の任は既に果たしました。⁽¹⁰⁾

また、さらに四月には遺言を改訂し、次のように述べる。

余の一生涯の作品は取るに足らぬものだが、ただ晩年に訳したギリシヤの『対話編』だけは五十年来の宿願であり、識者ならきつと価値を知るだろう。

遺書からは「宿願」を果たした静かな満足感だけでなく、ある種の諦念さえ漂う。それが自分を待ち受ける嵐への予感があったことは疑えない。最後の『平家物語』の訳文を半ばまで完成させた時、中国全土は既に文化大革命前夜を迎え、周作人を監督する側にあった周揚（文連副主席）までもが批判を浴びて失脚していた。もはや安閑として翻訳が続けられる状態ではないことは、誰の目から見ても明白だった。

その後の経緯は文潔若の文章などで僅かに知ることが出来るのみだ。⁽¹¹⁾

翌六六年八月二三日、紅衛兵によって自宅脇の浴室に監禁された周作人は連日のように暴行を受け、これより読

書も書き物も一切出来なくなった。その軟禁状態が九ヶ月近く続いた六七年五月六日午後、便所に立ち上がろうとしたところで急な発作に襲われ、ひとり溘然と絶命した。これまで献身的に周作人を看護してきた張莢芳（長子周豊一夫人）が駆けつけた時は既に事切れていた。享年八十三歳、余りにも過酷な最期だった。

だが、かくも凄惨な状況でも周作人は決して自ら死を選ぶことはなかった。家族に迷惑をかけるぐらいなら、早く死んだ方がましと口にしながらも敢えて生き続けた。ここに周作人が生涯かけて学んだ思想の極北を見る思いがする。それは何か。いまだ答えは見つからない。私はまだ本当の周作人を知らないのだ。

謝辞

戦後編の書簡の入力作業も、戦前篇同様、主として以下の四名の協力を得て完成させることが出来た。記して謝意を表したい（いずれも所属は二〇〇三年当時のもの）。

鄒敏（早稲田大学日本語教育研究科）、尹明（早稲田大学理工学部研究科）、

徐錚（早稲田大学文学部）、大野友里江（早稲田大学商学部）

このほか、校閲者として、ご協力いただいたのは次の方々である。

止庵（周作人自編文集編者）

趙京華（中国社会科学院文学研究所）

張莢芳、周吉宜（周作人遺族）

飯倉照平（東京都立大学名誉教授）

とくに飯倉先生には松枝家御遺族との仲介から文字校訂の細部に至るまで終始温かいご指導をいただいた。これ

までの御指導と併せ、ここに心より御礼申し上げる。

松枝茂夫夫人、ナヲ女史は二〇〇七年一月一三日に逝去された。ここに生前お約束した往復書簡集の完成を御報告するとともに、改めて謹んで御冥福をお祈りする。

文中の表記・体裁について

異体字表記など原文表記を極力尊重しつつも、読みやすさを併せて考慮し、原文にない記号（鉤括弧などのいわゆる約物）を加え、日中間で異なる記号も可能な限り統一するよう改めた。なお、戦後篇では書名が多数に上るため、書名に誤りがある場合以外は注記を省いている。

一九五四年

19541018Z 【周作人↓柳存仁】¹²⁾

存仁兄：日前剛發信，今又有事相煩。夏中實藤君處曾覆一信。由早稻田大學轉，諒可收到。還想煩他代買一点書，未便直說，仍請費心一轉託他。書單附上，十種中只頭兩部各值三百元，餘則大抵百元一冊也。仍擬以中文書奉酬，請他不客氣地開示。連環圖畫近半年中諒已有些出版，但他如不說需要，亦未便貿然逕寄也。在北大有華僑學生，云

可代辦，但託了她們却並無效。蓋因其家在橫濱，又係開中藥鋪者，其父親大概是兼作大夫，對於新書是隔行之故歟。匆匆不盡，知堂。

十月十八日

一，柳田國男『俳諧評釋』

創元社

二，穎原退藏『川柳雜俳用語考』

岩波書店

三，吉川幸次郎『新唐詩選』

〃

四，山澤英雄校訂『誹風柳多留』岩波文庫内

〃

五，吳，山田共譯『神々の對話』

〃

六，岩波寫真文庫の内

〃

(1) 『東京』

(2) 『東京案内』

(3) 『富士山』

(4) 『アカチャン』

(5) 『郵便切手』⁽¹⁴⁾

實藤教授

昨寄 一 航信 關於拙文稿事⁽¹⁵⁾ 或已登 記實

頃獲 啓明師 一信 寄

核奪 諒可有復信，交我轉寄可也。

匆候

暑安 柳存仁 拜十・廿七

19541219Z 【周作人↓松枝茂夫】¹⁶⁾

松枝先生：日前承代購書籍九冊，由柳君寄下，至爲感謝。其中『柳多留』第五冊，希望若波出版次第，仍爲購寄。又新出德永直之『靜ナル山々』（下巻）後篇已見亦祈見寄一冊仍由柳君處轉爲妥。先生需用何種書物，亦祈見示，以便寄奉。鄙人自解放以後，爲人民文學出版社繼續翻譯一部分希臘古典作品，已成大小十二種，近纔刊出一種『阿里斯托芬喜劇集』中五篇之一「富の神」⁽¹⁷⁾。餘當於明年陸續再出也。匆匆叩頌。

近安 十二月十九日 周作人

松枝先生

附呈 周先生覆信。如先生有函，此間仍可代轉寄，但周先生的信，請勿發表，祇可自己保藏，先生亦不欲惹不必要麻煩也。

匆頌

年福

存仁拜 十二・廿六

實藤教授并候

一九五五年

19550105M 【松枝茂夫↓周作人】⁽¹⁸⁾

周作人先生、久しぶりに、お手紙を差上げます。本當に長い間、御無沙汰いたしました。これまで何度か書こうとしたこともございましたが、何か遠慮せねばならぬように思われて、ついつい書きそびれているうちに、後になるほど益々書きにくくなり、とうとう今日に到りました。まことに大変な失禮をしてしまって、今さら申譯のしようもございません。深く深くお詫びいたします。

このたび、實藤さんからお話があつて、本當に有難いと思ひました。とび立つような気持でございました。いくらかでも小生、お役に立てば幸甚と存じます。よろこんで出来る限りのことをいたす所存でございますから、どうか、どしどしお申しつけ下さいます様、お願いいたします。

戦後、小生の身邊も多少の変遷がございました。

一九四七年に九大から東大に轉じ、一年半目に妻を亡くした為、直ちに東大を辞して九州にかえり、佐賀縣の山中に五人の子供と共に四年ほど蟄居しました。その間、岩波書店の援助を受けて専ら『紅樓夢』の翻譯に従っていました。五二年再婚、同時に東京にまいもどり、東京都立大学につとめております。同僚には竹内好、永島栄一郎君等がおります。

五三年の十月だったと思います。本屋で何の気なしに『魯迅の故家』⁽¹⁹⁾を求めてかえつてよみ、一讀直ちに先生のお

筆であることを「発見」して御健在を知り、喜びにたえず、幾晩か興奮して眠れなかったことをおぼえております。あの時すぐお手紙を差上げればよかつたものを、まだ遠慮せねばなるまいと思ひこんでございました。當時住宅難のために、鎌倉に住んでいました。七里ヶ濱の西端、江の島に近い海岸に二年近く住んでいました。

筑摩書房で『魯迅の故家』を翻訳出版したいというので、友人の今村與志雄君と共力^マして翻訳に着手してからすでに一年以上にもなります。この事でもはやく先生のお許しを得なければならぬところでした。今日になって申上げるのは甚だ失禮千萬、まことに面目もなく存じております。どうかお許しの程お願い致します。これはしかし私共には非常にむずかしい仕事で、やってみて驚きました。二人で出来るだけの手をつくしたつもりですが、さぞ間違いが多いことだろうと恐れています。

さて、さきに柳先生経由でお送りしました書籍、無事お手許に着いたことを知って安心致しました。あのうち『俳諧評釋』（柳田國男）は、ゾッキ本で百圓で買ったものですから、その様に御計算下さいませ。本屋の倒産相つき、ゾッキ本の中にも中々の良書がころがっております。

『柳多留（五）』は未刊です。出版次第お送りいたします。『浮世風呂解注』は中々ない本ですが、近いうちに見つかると思います。

『静かなる山々』（續篇）は、昨年中『アカハタ』に連載されていましたが、単行本はまだ出ていないと思います。なおもう一度しらべてみます。角川文庫に（一）（二）が出ていますが、二冊合せて「前篇」であります。蒼樹社出版の前篇（これもゾッキに出たそうです）は見えていませんので、たしかなことは存じませんが、——なお確かめてみます。²⁰

次に小生の欲しい本を申し上げます。まず先生のお譯しになったギリシアの物を拝見したいと存じます。それらはま

だ日本には一冊も来ていないのではないのでしょうか。まずそれをお願い致しとうございます。それから小生、最近、曹禺「蛻変」⁽²¹⁾を翻訳しまして（こんどの便で、お手許に差上げるつもりでおります）、この頃、戯曲に多少興味を感じており、曹禺著作を次々に入手したいと思えます。それで『曹禺獨幕劇集』『橋』『艷陽天』⁽²²⁾あたりから、お送り願えれば幸甚でございます。多少讀過したものもありますが、小生自身、曹禺著作は一冊も持つておりません（「蛻変」も人に借りたのです）から、見つかり次第、どれからお送り下さっても結構でございます。『雷雨』等は改作前のも欲しいのです。

その外では、『紅樓夢』関係の本、兪・周二氏の新書は持っていますが——趙女士の『紅樓夢劇』⁽²³⁾など、できれば読みたいと思っています。

今日は一月の五日、駅の近くに行つてみますと、まだ層蘇気分の人々もいくらか目につきます。年末年初の様子は昔と大して変わりません。たゞ門松やしめ縄など、商家は別として、一般の家ではむしろ飾らないのが普通のようになっている様です。小生も五十に近くなりました。もつともこの頃は満と數え年と両方あつて、どっちがどうか自分でもよくわからぬ様になってしまいました——おはずかしい限りでございます。

今度はこれで失敬いたします。どうかお大事にと祈ります。

松枝茂夫

東京都目黒区

三谷町三三

19550204Z【周作人↓松枝茂夫】

松枝先生：

從柳君轉寄之書籍九冊已收到，費心多謝。一月五日手書亦於十五日寄到了。曹禹刊本不知何故市上不易買得，只得到一冊『劇選』，內係『雷雨』等三種。雖係新印，但內容似保留改作前原本，或可供參考。其餘容再訪問，或在雜誌發表而未單行者，亦當查詢蒐集。拙譯只寄上『阿里斯托芬喜劇集』一冊，其中「財神」(Ploutos)係由我翻譯。此外雖已譯出エウリビデース劇九篇（餘在續譯中），須至秋後始可陸續付印，今年內可先出一冊三篇。又『伊索寓言』亦由原文譯出一部，可能春間出版，屆時當再寄奉。

人民文學出版社想要介紹日本古典文學，我只能答應譯一點室町時代的狂言，舊曾譯出『十番』，今又加添，共有二十四篇，名為『日本狂言選』，大概上半年內可以印出。此外擬為譯德川時代的滑稽本，第一是『浮世風呂』，但須找到出口米吉注本始可着手。現代的有石川啄木的小說，他們指定，我亦擬代譯，但手邊也無原書，希望為尋找一、二單行或文庫本見寄為幸。上海出版公司有拙著『魯迅小說裡的人物』一書，未知已見到否？雖多是小說中的說明，後面也附有關於魯迅早年生活之資料。草草不盡，即頌

近安 二月四日 周作人

別記各書希便中購寄為荷，又及。

一、岩波文庫

二、岩波寫真文庫⁽²⁵⁾

高津譯『ギリシヤ神話』アポロドロス

岩本譯『カターサリットサーガラ』(一) カラ⁽²⁴⁾

高津譯『擬曲』グヘロン

1、東京

2、東京案内

3、富士山

4、アカチャン

5、郵便切手

6、飛驒高山

三、『アルス・グラフ』第九集

東京アルス發行⁽²⁶⁾

19550215Z【周作人↓柳存仁↓松枝茂夫】⁽²⁷⁾

存仁兄大鑒：今晨收到轉來松枝君所寄書三冊，至為欣感。『浮世風呂注』得到，於將來譯該書甚有幫助。『未摘花』雖承實藤代買第一版本，今再得一本亦甚可喜（深恐國內未有第三本也）。『曹禺篇』見惠，甚感荷。前寄上之書（『曹劇選』，又『雷雨』等二冊）（『喜劇集』係贈與者在外）想承費心代轉，今又寄上『劇本』二冊，內有「明朗的天」一劇，請再為寄送。曹劇大概銷行太好，不易找到，如松枝君此外需要別的書籍，請其示知，以便購集，曹劇則仍當隨時找尋。

又有下列之書，希望松枝君代為購求。（均見『未摘花』卷末廣告）

一、岡田甫著『新川柳未摘花』（並製） 有光書房

二、〃 『全釋柳の葉末』 美和書院⁽²⁸⁾

計託松枝君代買之書，共計已不少，因此希望他能將需要之中文書多多開示，俾得抵充。目下只曹禺一種，不但現時不易得、且亦價值太少，不能相抵也。『白石畫冊』想已收到了。匆匆即頌

近安 二月十五日

啓明

此係我的事在也。

松枝先生：

今天收到你寄周先生大批書，包括：『希臘神話』，『川柳』，『石川啄木集』四冊及『東京案内』各書，已全部寄去。又：另寄你『劇本』二冊，乃周先生囑轉寄你的。祝

好

存仁三，八。

19550227Z 【周作人↓松枝茂夫】⁽²⁹⁾

拜啓 月初航空寄一信，想已查覽矣。曹禺劇作由柳君轉寄三次，想可次第收到。目下曹君作品不知爲何市上少見，希望開示別的需要書籍，以便覓購。尊譯『曹禺篇』⁽³⁰⁾已拜見。『浮世風呂』找到甚爲欣慰，惜一時無暇，未知何日始能着手，至於移譯不易，又是別一事耳。『未摘花』曾得第一出版社本，今又承寄下一冊，甚感。曾寫信給柳君說，在中國恐無第三本，頗以自意也。由柳君函請購求岡田氏同類著作，（『未摘花註解』及『愛欲史』⁽³¹⁾，已托實藤君求得矣，未知有可得者否？昔孔子云，「七十而從心所欲，不逾矩」，鄙人頗思引此語以自解。川柳（特別是『未摘花』一路 此刻^{遠或永} 難以介紹於中國，但個人得有機緣獨自鑑賞，亦大是幸事耳。『アリストブウネース選集』⁽³²⁾想已收到，『日本狂言選』⁽³³⁾三月中可出，屆時當寄上一冊，作爲我對於日本之紀念也。草草

松枝先生

周作人 二月廿七日

19550316M 【松枝茂夫↓周作人】

周作人先生

いつも御返事がおくれてしまった、まことに申譯マダございません。柳先生を通じて御送りいたゞきました『曹禺劇本選』、『雷雨』、『日出』、『阿里斯托芬喜劇集』、全部たしかに頂いております。御厚意有難うございます。

お手紙も二月四日付、三月一日付のもの、みなたしかに拝承いたしました。このようにおくれた返事になろうとは私自身としても全く意外で怪しからぬ事でございます。深くおわび申し上げます。

岡田氏の本は勝手にお送りいたしましたのですが、お喜び頂いて、勿怪の幸でございます。安心いたしました。この本は古本で二百円でした。もうこれも中々かんたんには見つからぬ本になりました。

『魯迅の故家』拙訳本がようやく出来ましたので、とりあえず三冊だけ柳先生あてに送らせました。いろいろおはずかしい点が多々ございますが、お許し願います。

訳文も、実はいろいろおききなげれば解決つかぬ所がありました。手廻しがわるい爲に何も出来ませんでした。口繪の紹興風景は大連の亜東印画集船でうつしたもののうちに「紹興十種」の中から選んだものですが、説明書が紛失していた爲に、城門の名がわからず困りました。これは何門というのでしょうか。お教えねがいとう存じます。附録の地図が又おかしなもので、上の略図は私の持っている『紹興縣全圖』（中華民國十三年七月張光釗）に據ってつくったのですけれど、昌安門外の魯墟というのがどうしても納得いかなかったり、大樹港がみつからないため、やむをえずそのまま、にしたり、その他甚だ心細いことが多いのです。下の城内地圖も、あまりよくなく、「魯迅の生家」の位置の指示も少しちがっているようです。

どうかお返しえ願いたく存じます。

さる二月二十一日にお送りした書籍はすでにお受取り下さったと思います。あのうち『真山青果随筆集』二冊だけは武田泰淳君から貰ったのを、そのままお送りしました。川柳・西鶴なかなか詳しくかった人だったと見えます。何かのご参考になればと存じて送ったものですから、お受け下されば幸甚でございます。明日左の五種を柳先生経由でお送りします。

一、『滑稽本名作集』三田村鳶魚注

一、〇〇〇円

二、『川柳末摘花註解』岡田甫注

二五〇円

三、『誹風末摘花』稲田三良注

七〇円

四、『末摘花通解』二ノ上⁽³⁴⁾

六〇円

五、『知識人の抗議』渡辺一夫

三〇円

(二)の『浮世風呂』の注は出口氏のほど詳しくはありませんが、解説がくわしく、専門家の話ではやはり大事な本らしく、本がかなりいたんでいるにもか、わらず、値が張りました。この本も少ないようです。(二)も非常に少ないそうです。

次に私の欲しい本を挙げます。

○李長之の著書

但し『司馬遷之人格と風格』、『陶淵明傳論』、『中国文学史略稿』二冊はすでに求めました。戦争中に李白論その他の本が出たとかききました。又、『文学史略稿』の續冊が出ればお送りねがいます。

○林庚『中国文学簡史』

○魯迅の著書のうち

『二心集』、『三閑集』、『且介亭雜文二集』、『且介亭雜文末編』（初集は不要）、『魯迅書簡』、『中国小説史略』、『古小説鈎沈』

○小字典一・二種

『新華字典』、『学文化字典』などのうち、使いよさそうなのを、一、二種ほしいのです。

○李健吾、丁西林、熊佛西、田漢、洪深その他の人々の代表作品集のようなものはないでしょうか（『新文学大系・戯曲篇』のようなもの）

○『新建設』一九五〇年三月号

兪氏の「紅樓夢簡論」をぜひよみたいのです。

○『儒林外史』 人民文学出版社⁽³⁵⁾

○『許地山選集』 中国新文学選集

○『人民畫報』

手に入るかぎり最近號まで

○世界書局發行 『世説新語』、『顔氏家訓』等五種ほどで一冊になった本

大分並べましたから、又この次に注文いたします。この外でも文藝関係（それ以外でも）小生に適當と思われるようなものがございましたら、何でも結構でございます。見計らってお送り願えたら幸甚です。萬一私の持っている

分と重複するようなことがあったとしても、学校で買ってもらうなり、よろしく処分する方法がございますから、その点をご心配いりません。

『南方熊楠全集』十二冊は御覧になりましたでしょうか。萬一まだでしたら、何とか捜して御贈呈したいと、今村氏と二人で話合っております。この良心的な出版の爲に、当の出版書店はつぶれてしまいました。どうかお知らせ下さいませ、おねがいします。

曹禺の『蛻変』が、この五月下旬から、新協劇團（村上知義）で演出されることになりました。

ある本屋でエロシエンコの作品集を出版しようと計畫しており、日本語の三冊（すでに稀覯本となり、上野圖書館にもそのうちの一冊しか（『人類の爲に』）ない程です）の削除された部分を、魯迅の譯文によって補正することになりました。エロシエンコの中国譯本には魯迅の外に胡愈之（或いは先生も）あつたのではないかと思ひますが、どうでしょうか。もしあればその篇名、訳者名（魯迅以外の）等、御教示下さいませでしょうか。お願いいたします。前に商務發行の『枯葉雜記』³⁶を私は持っていました、失くしました。誰の譯だったかも忘れてしまいました。

雑多な事のみ書き並べました。御判読ねがいます。ではお大事に。はるかに祈上げます。

三月十六日

松枝茂夫

周作人先生

○追伸

前記五冊の外に、『南方全集』二冊を加えることにしました。これは私の手元にありましたハンパ本です。見本としてお送りします。もしも、全集を御覧になつていたのでしたら、この二冊は、お知合のどなたかにお贈り下さるなり、適當に御處分下さい。どうせ私は不要ですから。

なお、出口米吉氏注に『頭注 東海道膝栗毛』⁽³⁷⁾というのがあることを、古本屋で知りました。四百円也、三田村鳶魚よりも詳しい注です。御存じとは思いますが、ついでにお知らせいたします。

19550411Z 【周作人↓松枝茂夫】

拝啓 三月十六日手書於六日拝讀、賜寄之書籍亦由柳君轉寄到了。費神至爲感謝。『真山青果集』等亦已於三月中旬收到。三田村之『滑稽本』，於我頗有用處，因爲明年計畫翻譯『浮世風呂』，可以參考。只是尚有一層困難，因第一編中談及將棋、非先學習得一點知識，無從着手，爲此請便中爲留意買一小冊『將棋の手解き』之類的初歩入門書，但反正須明年動手，此小書亦不急了也。出口之『膝栗毛註』昔亦有之、唯因不計畫譯此書、故目下無用處耳。『南方集』二冊承見賜謝々、對於南方昔甚有敬意，全集未見，曾欲求得，如有機緣能代找得甚幸，但未敢請贈予，仍作爲交換可耳。尊需之書，只將買得的數冊先由柳君轉呈，計有

- 一、『儒林外史』一冊 二、『魯迅書簡』二冊 三、又『文集』二冊
- 四、『古小說鈞沈』一冊 五、『小説史略』二冊 係舊有初版本、今以奉贈。
- 六、『洪深劇作選』一冊 七、『田漢劇作選』一冊 八、林庚『文學簡史』⁽³⁸⁾上一冊（下續刊） 九、『人民畫報』二冊

二月份品切、大抵雜誌的(38) 且(38)不易入手、因此有魯迅伯論文之新編設。現在亦無法找得了。

字典容在市上一找，大抵都很淺。想難有什麼用處，容後日奉告。

世界書局係李毓瀛所辦，早已沒收，其舊書亦少見，容找尋但恐難得。『許地山選集』及魯迅別的論文集賣到後再寄去，別的有適宜書物亦容留意。承詢紹興城門，因面貌已非，記不清是哪一門，過去在門上有城樓。如東郭門即是，而此無有，故不能斷定。又魯墟確是在昌安門外，大樹地在西郭門外，東浦之東至少由城內去魯墟是要經過昌安門的。下圖中「魯迅の生家」還應偏西一点，距張馬橋只數丈，在張馬橋的西北一点，圖中所記乃是「老臺門」也。『故家』根據族叔周官五的指示，關於人地名略有訂正增補，寫了一篇後記增入，唯新版遲々未出，目下尚不可得。エロシエコ作譯本，根据エスペラント文的。記得有胡愈之等本，日內當一問詢，後再奉聞。匆々不盡。

松枝先生

四月十一日

周作人

再，下列各書之再費心代爲購寄，由柳君轉寄是幸：

一、新日本圖書館學叢書之內 文京区音羽町五ノ一、蘭書房發行

一、『圖書分類ト圖書記號』 仙田正雄著

二、『圖書分類規則』 同上

三、『圖書目錄ノツクリ方』 小野則秋著

二、岩波寫真文庫之內

『73 佐渡』 『111 熊』

『79 日本ノ民家』 『121 農村ノ婦人』

『85 伊豆ノ漁村』 『125 日本ノ燒物』

『98 美人畫』 『129 瀬戸内海』

19550421Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓。十一日寄一信想已蒙查覽矣。昨又由柳君寄上書四冊、除『許地山選集』外、其『高玉寶』及『秦漢的方士與儒生』^{剛讀}均隨手拾得，便以寄呈，恐無甚用處。又拙集『立春之前』一冊、在終戰前印成而未發行，似未蒙見到，今故奉贈一冊。鄙人于「淪陷」時出任「偽官」其動機大概未為知道，但有一事可以奉告者，即一九三九年元旦之暗殺事件乃出自日本軍部（？）^及方面也。當時鄙人在燕京大學任職，在重慶方面是認為正當的。事件後在東京辭職之重慶教育部專員及燕京大學校長均致慰問、出臨明罪^罪又北京暗殺各案後均破獲，唯此案無着落。曾向常來訪問之憲兵隊員問及，以後即不再來，均屬可疑。特別是我當時每週一天定期往燕京上課，在郊外狙伺最為確實。而其時偏到家裡來，是明々恐怕在郊外狙擊，容易顯出嫌疑，顯露因為往燕大去之故也。此事已成過去，但日本友人方面恐知者不多，故以奉告，聊備參考。前託柳君轉寄書中有拙譯『日本狂言選』一冊，係增訂舊譯『狂言十番』而成。因出版社缺少日本古典文學譯本，故得早日付印，亦是僥幸也。『人民畫報』以後可每月寄呈，但四月份亦尚未出。前函奉託代購岩波寫真文庫，有『72 廣島』一種忘記列入，乞費心補購。又見廣告，朝日新聞社出有柳田國男編之『日本民俗圖錄』，亦祈寄下一冊為幸。『新華字典』及『學文化字典』曾一看，皆極粗淺，但如需要、可一示及，當為寄去。勿々不盡、此上

松枝先生台鑒

周啓明 四・二一・

19550721Z 【周作人↓松枝茂夫】

松枝先生：

兩月未通問訊為歉。上月中由柳君轉來『日本民俗圖錄』等大小十六冊，至為感荷。⁽³⁹⁾尊需各書，苦於不易得：魯迅

雜文零售者不多，『且介亭文』終未能入手，聞人民文學出版社將刊行註解本，屆時當可買到。唯其時須在明年耳。新出了『西林』⁽⁴⁰⁾，『吳祖光劇選』，各寄上一冊，又李長之『文學史簡編』第三亦已寄出。又『趙樹理』及『老舍近作』各一，皆名人近作，寄呈以供參考。胡風集團在現今是一重要問題，有關資料五冊，特以奉贈，可請一覽。極想寄奉書刊，不知何者適用，請多々開示，以便照辦爲幸。下記岩波寫真文庫中三書，希望使中代購寄下：

『七〇手術』 『九九日本の貝殻』 『一〇〇本の話』

北京現在初伏中，正當日本曆之「土用」，想必天氣炎熱，尙祈珍重爲要。草々不盡

七月廿一日 周啓明

19550906Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓：前寄信知已蒙察覽，從柳君轉來『古典研究』及寫真文庫三冊，至爲感荷。『浮世風呂』已由人民文學出版社見委翻譯，擬譯出前二編，加註可有十萬餘字，擬於十月內完成之。希臘悲劇^{エウリピデイス}已成十部，無足珍重。此次如譯成此半部『風呂』，深自欣幸。鄙人留學日本一趟，雖學無專門，稍涉獵近世文學，只可惜所喜川柳落語方面無可發揮，在滑稽本上邊得盡一點力，實是太幸。但此亦正是解放之惠，否則忙於教書，亦無從着手也。出版社亦頗想叫我譯些落語，惜材料難得，手邊只有一冊安岡鶴夫的『落語鑑賞』⁽⁴²⁾，很可利用，而可選者不多，如得多有一二種，便好。不知便中能爲留意否？又譯書中遇到『忠臣蔵』故事，深感知識不夠。乞代找一冊簡要梗概書寄下。本來收藏資料不足，今又均散失，圖書館未整理未能借出，因此深感參考爲難也。朝日新聞社刊行日本古典全書，中有『浮世床』一冊，未知何日出版，刊出後祈爲代購一冊，雖不翻譯，亦欲得之。（該書係中西善三校注）又下列各書亦乞費心購寄：

一，朝日新聞社『家庭医学叢書』四冊 一八〇宛

二，同上 『寫真デ見ル新日本』 三五〇

三，アルス・グラフ『歌舞伎名作の鑑賞』 二八〇

尊處需要何書，亦祈源源開示，以便購奉。

九月六日 周作人

松枝先生

19551113Z【周作人↓松枝茂夫】

拜啓 接讀一日來書後於十五日寄一復信，想已蒙察覽矣。囑購之書昨日找到數種，先後寄出，計『重評石頭記』一部二冊，『西遊補』一冊，『文學遺產增刊第一輯』一冊，『聊齋志異』一函四冊。尙有『古今小說』，俟由上海來貨後當再代購，唯『世說新語』云係翻印前田家尊經閣印本，是否需要，請見告。此外聞有余嘉錫之『世說新語箋注』，頗爲詳盡，如出版，似尙有參考之價值。『封神演義』亦容續寄。有在西北大學之外孫⁽⁴³⁾索得中日貿易新聞社集郵部之目錄，有別紙所列之郵票欲得而無法郵購。茲特代爲奉托，可否請向該社購取，直接寄至敝處，至爲感荷。又有下列二書，亦祈費心代購。唯第二種係外縣出版，是否不易覓得。

一，岸本水府著『川柳讀本』創元社

二，安川久留美著『現代川柳の鑒賞』すげ笠川柳社

(愛知県犬山町松本町三四〇，すげ笠川柳社)

承寄下忠臣藏參考書甚爲感謝。又『落語全集』二冊。閒時披讀甚感興趣，唯苦於不適宜於翻譯(題材方面)，此事恐甚困難。雖出版社有此希望，恐未易達到也。『浮世風呂』前編二編已譯註完了，送給出版社，何時能刊行，則尙

未知。匆匆不盡，即請
松枝先生台鑒

周啓明

十一・十三・

目黒区柿木坂一一四

中日貿易新聞社集郵部

第四回国民体育大会紀念(水泳)	8	8	十和田国立公園(組合せ)	55	100
〃	8	20	阿寒	55	100
〃	8	20	〃	55	100
切手趣味週間紀念	5	80	梅謙次郎	10	20
〃	5	80	〃	10	20
平和博覽會紀念(長野)	16	40	内村鑑三	8	15
〃	16	40	〃	8	15
磐梯朝日国立公園(組合せ)	60	100	狩野芳崖	8	15
〃	60	100	樋口一葉	8	15
中部山岳	60	100	〃	8	15
〃	60	100	〃	8	15
吉野熊野	40	80	長崎	24	50
〃	40	80	〃	24	50
富士箱根	55	100	〃	24	50
〃	55	100	〃	24	50

原價

855
(44)

19551124Z 【周作人↓松枝茂夫】（葉書）

拝啓 前承寄示川柳新刊廣告，其中有大曲駒村著『川柳大辞典』（上下二冊、日文社發行）如已刊行，祈費心爲代購一部寄下爲荷。

松枝先生 台鑒

十一月廿四日 周啓明

19551205M 【松枝茂夫↓周作人】

拝啓

暫くご無沙汰いたしました。お変わりございませんか。本日、柳先生あてに（大変おそくなりましたが）

岸本水府『川柳讀本』（これはゾッキ本で金百円也です）

安川くるみ『現代川柳の鑑賞』⁽⁴⁵⁾

岡田甫『珍書探求』

『近世庶民文化』二八号

『日本郵便切手 型録』

組合せ切手六種

を送りました。『柳の葉末』は来年再刊されるそうですから、それまでお待ちねがいます。『近世庶民文化』は近いうちにバックナンバーを取揃えてお送りできるかと思えます。『柳の葉末』の精粹は大方でているとのことです。

なお同種のものに「べにふで」⁽⁴⁶⁾というものがあるとかで、これも来年再刊されると聞きました。切手は組合せ分以外の分は、この手紙に同封いたしておきます。最近ビードロを吹く女というのが出て好評のようです。ついでに二枚だけ添えおきます。

お示しの柿ノ木坂二一四、中日貿易新聞社というは、ちょうど私が学校に行く道筋ですので、さがしてみましたが、見つかりませんでした。その番地の人にきいてもわかりません。それらしい看板のか、った家ありません。狐につままれたような気持です。それで神田の専門店から、これは買ったのです。

『重評石頭記』⁽⁴⁷⁾をお送り下されし由、まだ着きませんが、何より有難く、一日千秋の思で待つております。

『紅樓夢討論集』⁽⁴⁸⁾が出ています。これもお願い致します。豊一先生の譯書⁽⁴⁹⁾すでに受取りました。有難うございます。前便ご教示のエロシエンコ寫真⁽⁵⁰⁾について、二十三年のものとすれば、日記にある八人のうち竹田先生の姿がありません。駒田氏によれば、もう一枚、竹田先生のはいったのもあるとのこと、たしか二十二年（魯迅日記）ではないかというのですが、どうでしょうか？

この數ヶ月、魯迅の『墳』の翻譯に従事し、大変苦労いたしました。調べられるだけ調べたつもりですけれども、尚不明のところが沢山あつてこまりました。とりあえずこの三つお教え願いたうございます。

一、八八頁一、二行「摩羅詩力説」汲潭易送氏？

二、二〇二頁 十一行「雜憶」黃蕭養 回頭

三、九九頁 十三行「摩羅詩力説」コロレンコの「末光」 くらがり？

今日、お葉書いただきました。『川柳大辞典』さっそく調べて、出ていたら、お送りします。

尚、余嘉錫『世説箋注』が刊行されるとのこと、期待しております。前田家本は以前に東大で借り出して校訂したことがありますので、急に要るわけではなく、余氏の本が出れば、尚更でありましょうから、この度はお送り願わないことに致します。

そろそろ、寒い時候となりました。御地はいかがでしょう。こちらはまだ火鉢は用いず、日向ぼっこを楽しんでいます。

おからだ、お大事になさいます様、祈っております 不一

十二月五日 松枝茂夫

周啓明先生

19551213Z 【周作人↓松枝茂夫】（葉書）

拜啓 下記畫刊二冊祈費心購寄。此二冊如能直接郵寄北京最好，專此拜托。

一、『歌舞伎』（アルス・グラフ②）

二、『歌舞伎名作の鑑賞』（同上⑤）⁽⁵¹⁾

（世話狂言の部）

19551230Z 【周作人↓松枝茂夫】

雜書十許種，甚爲瑣碎，祈費神代購爲幸。

拜啓 五日航空信已拜見，承費心寄下『川柳讀本』等亦已領到，謝謝。『世説新語』影印本容一找，如印佳當爲購寄。

『封神』云要印，但尙不知何時。關於『墳』的問題，容日內轉問人民文學出版社內魯編室魯迅著作編輯室同人。他們在作註解。有些比我所知爲詳，但“汲覃助送”⁽⁵²⁾記得他們曾來問我過，則恐終難測知爲誰也。魯迅雜文注解聞一九五六年中可印出數種。他們還在整理日記及書簡，則工程浩大，恐一時未易卒業耳。草草。

松枝先生

十二・三十・

周啓明

角川文庫

戸板康二 『歌舞伎ノ話』

徳永直 『妻ヨ ネムレ』⁽⁵³⁾

〃 『静カナル山々』(一，二)⁽⁵⁴⁾

河出書房市民文庫

田山花袋 『東京ノ三十年』⁽⁵⁵⁾

内田百閒 『贗作吾輩ハ猫デアル』

岩波書店

岩波文庫 『擬曲』

〃 『人サマ』⁽⁵⁶⁾

〃 『銀ノ匙』(中勘助)

「誹風柳多留」(五)

「啄木歌集」

寫真文庫
「歌舞伎」

啄木全集別冊
「啄木案内」

一九五六年

19560114M 【松枝茂夫↓周作人】

新年おめでとうございます。

当地は旧臘からずと春のような暖さがつゞいて、全然冬のような気持がしません。お正月も火鉢いらすとは珍しいことです。御地はいかゞでしょうか。『脂硯齋本石頭記』、『西遊補』、『古今小説』、『聊齋志異』等たしかに受取りました。まことに有難うございます。こちらからは十二月二十八日に、『川柳大辞典』二冊、『静かなる山々』第二部上、下二冊、『近世庶民文化』第八号から三十号まで(28欠)、香港柳先生宛に送りました。右のうち、『静かなる山々』第二部は、うっかりして九月に發行されたのを知らず、大変おくれて申譯なく存じます。

『近世庶民文化』⁵⁷⁾は、岡田甫氏より武藤禎夫氏を通じて、先生に贈呈したこととあります。武藤氏は若い川柳研究者で、『苦茶庵笑話選』を私のところに借りに見えられてから、知り合いになりました。岡田氏と昵懇の由で、

その著書を求める便宜を得ました。岡田氏からは「拙著を讀んで下さって、有難うございます」と傳えてくれとのことであつたそうでございます。

本日（一月十日）

香港あてに九冊、『歌舞伎の話』、『妻よねむれ』、『静かなる山々』第一部上下、『贗作吾輩は猫である』、『擬曲』、

『人さまさま』、『銀の匙』、『啄木歌集』

北京あてに二冊、

『アルスグラフ歌舞伎名作の鑑賞』、『歌舞伎』

尚、その他は、又あとからお送りします。岩波文庫『柳多留』（五）は、二月發行の由です。一句索引を附する為に發行が延びたのだということでありました。

私は目下『准風月談』と『花邊文學』の翻訳に忙殺されております。本年四月頃(58)から、岩波書店から『魯迅選集』十四冊が続刊される予定で、その一冊です。形は啄木全集、芥川、志賀全集と同じような、いわゆる新書版で、毎月二冊づゝ出るので、大変です。翻訳は疑問続出で難行をきわめ、大弱りのていでありました。それにつけても、中國の注釈事業が待たれる次第ですが、間に合わないかも知れぬと恐れています。

仕事仕事でいそがせられて、正月も忽々に過ぎてしまいました。この手紙もすつかりのびくになつて申訳もありません。

あとの本は集まり次第すぐお送りします。

松枝茂夫 一月一四日

周啓明先生

19560121Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓，承寄下『川柳大辞典』二冊，『静カナル山々』等三冊，收到多謝。新年過後圖書館始能借書，借來『墳』一看，略奉答如下：一，「汲冢勸送」夙成疑問。人民文学社魯編室（須著作）同人見詢亦未能解答。今見原文始憶起此段材料原係鄙人所供給，出自コロボトキン之『Ideal & Reality in Rus. Lit.』或フランデス之『ロシヤ印象記』中。（大抵是コロボトキン）請就各該章一查，當可明瞭。二，「黃蕭養回頭」係陳天華所作，借了民間傳說人物叙說滿清滅明故事，宣傳民族革命者。關於此一項如魯編室有更詳明的資料，當再奉告。三，コロレンコ之『末光』未能確憶，記得似是英譯名「Wilight」，但英譯本未見到。請一查關於コロレンコ著作的論文，當可知道吧。『近世庶民文化』承惠寄，至感。茲又有一事奉託：人民文学社以後擬着手譯印日本文学作品，妄想着手搞一冊淨瑠璃選，苦無參考本，聞河出書房有『口語譯近松名作集』一種，乞費心代購一冊。又朝日新聞社古典全書中有中西善二校註之『浮世床』，如已出版，亦祈一併購寄。岩波寫真文庫中『一年生』一種聞甚佳，乞亦找一冊寄下。『浮世風呂』初二編譯本云即將付印，可能在春間出版。在店頭見『封神演義』已出，購得一部寄在柳君處。想不久可以奉上。查此係翻印坊本（四雪艸堂本），似無多大價值。明刊本國中找不到，此翻刻似無多少意義。若爲流通計則又書本太大，殊不便於翻閱也。不盡

松枝先生 一月廿一日 作人

19560202Z 【周作人↓松枝茂夫】

新印出『警世通言』是否需要，容寄奉。

拜啓

十四日賜書誦悉。直接寄來之『アルス・グラフ』已於昨晚收到，由香港轉之分想亦即可到矣。柳君將有英國之行，將轉寄刊物之事托了何儀君（香港九龍），唯以後擬陸續改為直寄。如貴處別無什麼不便，亦請改變。雖然請何君轉亦無不可。前由柳君轉奉『封神』二冊，又由何君寄上小書三冊（『文學遺產選集』、『增刊』等）。想可前後收到了。嚴敦易『水滸之演變』未出，聞原擬附於『水滸評林』翻印本後，現似在擱淺也。『墳』中三問題已查來，波單助送“原文當係從クロポトキン書中查得。同封寄上祈查收。前來信說及兒童文學，關於此事一時殊難奉答。因不知有何種佳作，而市上批評又多不很可憑心。以此久擱。有友人在人民美術出版社主編”小人書“此係俗稱，現在通稱連環圖畫。曾以上製『東郭先生』見貽。今轉以奉贈。云小人書精印大用紙者此處只有“童工”，為其中最佳之二冊也。又拙著『立春以前』一冊亦附奉，此書剛印成適逢終戰，未發行而書店關門，故市面上不見。「笑贊」一冊收在此內。笑話選久思改變，未有機會，數月前“外文出版社”擬選擇笑話一冊為英文，囑供給資料。因發心於原書三部分外加入趙南星之『笑贊』全文。此書難得完全版本，因此我所抄存的一卷也可以算是了。名為『明清笑話集』。除借給外文社抄出一本外，已寄給文學古籍刊物社人民文學出版社內之一分支去看。未知能接受出版否耳。匆匆不盡。

松枝先生

二月二日

周啓明

再下記二書，祈爲物色賜寄：

- 一、德富蘆花『不如歸』（岩波文庫，或其他）
- 二、佐多稲子『私ノ東京地図』（新日本文学会，但別種刊本均可）

〈別紙〉

原稿用紙にブルーブラックの万年筆の文字の後に毛筆で加筆されている。万年筆は恐らく魯迅著作編輯室で、毛筆

が周作人だろう。毛筆部分をゴチックで示す。

(一) 汲覃劬迭 (F.M. Bodenstein, 1819—1892) 德國作家。

(二) “末光”の原名是 Последний Луч。英文是 Last Ray。一九〇一年發表。

(三) 黃蕭養回頭，新廣東武生著，是一本鼓吹反清革命的粵劇。原載新小説雜誌，後有廣智書局的單行本。內容說黃帝命黃蕭養的靈魂投生，從事救國運動。

一，汲，應是波字。恐在『河南』雜誌上發表時誤植，相沿未及改正。

三，此書記得係是陳天華所作。「新廣東武生」當係其筆名。

19560216M 【松枝茂夫↓周作人】

拝啓

お手紙有難うございます。”汲覃劬迭“など三件大変お手数をおかけして、すみません。おかげでどうやら形がつかまりました。『摩羅詩力説』の第八章は、ブランデスの「ポーランド」英文1886中の「十九世紀ロマン主義文学」にある由、学生が調べてくれて、ほぼ原文をつきとめることができました。たゞ方々にやはり疑問があつて、十分な翻訳ができなかつたことを羞かしく思います。

『封神演義』、昨日たしかに拝受いたしました。あつくお禮申し上げます。

さて大変おくれましたが、本日、直接北京あてに、五冊だけお送りします。

『浮世床』（朝日新聞社）

『一年生』（岩波写真）

『東京の三十年』（角川）

『私の東京地図』（〃）

『不如帰』（岩波文庫）

なお、「啄木案内」は目下品切、そのうちに岩波の人にたずねて、何とか手に入れたと思います。

『柳多留』（五）、『近松』（河出國民文学）はまだ出ません。

浄瑠璃本は、新刊本はないかもしれませんがさがしてみます。

柳先生から、私の方へもお知らせが参り、何儀先生を紹介して下さいました。

しかし、直接北京の方が、時間的にずっと速いようでございますし、途中紛失の危険さえなければ、その方がよろしい様に思います。私の方は一向差支えありません。中國に対する一般感情は非常によく、ことに若い人達はきわめて自然な気持で（卑屈ではなく）、中國に対して深い尊敬を抱いているようです。戦前とは全く大したちがいがあります。そのことは先だってお見えになった郭先生の一行も十分おわかりになって帰られたと思います。

当地は今年になって一度、大雪が降りましたが、その後また非常に暖^マく、桜も咲きそうな日和が^マつきます。私は魯迅全集の翻訳ですつといそがしく、『准風月談』と『花邊文学』をようやく終り、これから『両地書』の後半部にかかろうとしております。とりあえず右まで、又書きます。

二月十六日

松枝茂夫

周啓明先生

19560227Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓 十六日航空信拜見。承寄下書籍想不久可到，費心多謝。今又有事奉煩，友人徐祖正（現已回北京大學，在東方語文系日語科任教授）需要新村出編『廣辭苑』（岩波版）一冊。請寄下轉交。徐君亦擬以漢籍交換，未知有較大部爲宜何書需要。祈示及，亦仍由敝處代辦寄上。又有下列諸書，亦乞費心代購：

一，東久邇宮稔彥著『ヤンチャ孤獨』出版所不明

一，朝日新聞社編『東京ムカシムカシ』⁽⁵⁹⁾

一，若山牧水著『紀行文集』此種並無一定，因有改造文庫中之二冊，頗覺喜歡。爲此請代一查岩波及其他文庫。如有別種選本（或單行本），請爲購取一二爲荷。北京今年殊不冷，近日連續下雪三個半天。今日雪後大風，但早晨室外亦只是零下六度耳。草草不盡。

松枝先生

周作人

二·二十七·

19560322Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓 二月末寄一信，想已可收到。二月中曾寄上『文藝遺產選集』及『增刊號』三冊，由何君轉呈，似未到香港而中途遺失。日後當再購寄耳。由北京直寄之件，未知均能收到乎？昨寄出一包，內『且介亭雜文二集』一冊，市上找不到，乃是日內見到人民文學出版社內，魯編室“幹部，向其索取，由該室奉贈者。略一翻看，其中文章恐對於日本現代讀者未必有多大興趣？又一冊關於北京者，係友人張君所著，囑代爲贈與對於北京有興趣的日本友人，請查收。

如或別有感到興趣，或擬利用者，請告知。尙可向其索取一二冊也。今年魯迅去世廿年紀念，人民文學社將印行註解本著作，但出版遲遲。對於尊譯幫助上無多用處。因出版之期恐將在秋間開始也。北京天氣漸暖，日本想“花見”時節不久將開始矣。草草不盡。

松枝先生 三月廿二日 作人

19560323M 【松枝茂夫↓周作人】

拝啓

昨日、お手紙いただきました。

過日来、つきつきにお送り下さいました『人民画報』二冊、『警世通言』、『紅樓夢問題討論集』三冊、それから、『東郭先生』と『立春以前』、確かに受取りましたから、何卒ご安心下さい。お手数をおかけして済みません。

『立春以前』は、実は前にすでにいたゞいて拝読いたしました。この珍らしいご本を二冊もひとりで我物にするのは、甚だ勿体ないと思いますので、かねて先生のご著述を愛読している友人の今村與志雄君に贈るつもりでおります。

本日別便で

『柳多留』（五）（岩波文庫）

若山牧水『幾山河』（角川文庫）

野田宇太郎『東京文学散歩手帖』

を送りました。最後のものは神田の露店で、ゾッキ本に出ていましたのを買っておりましたので、ついでに添えた

まででございます。野田氏の『東京文学散歩』や『パンの会』はすでに御覧になったでしょうか。

『啄木全集案内』は、賣切ですが、そのうちに手に入るかも知れません。この新書版は、後出の芥川や志賀の全集ほど装幀がよくなかったので、賣行がわるく、あまり増刷しなかったのだそうです。河出書房の『文藝』の臨時増刊に『石川啄木讀本』というのがありますが、これも割合便利なように思います。また吉田孤羊編の『啄木写真帖』かなり大部の立派なものです。古本屋に半値か三分の一位の値段（たしか三、四冊三五〇円位）で、古本屋（新本の古本）にころがつているのを見ました。

『広辞苑』は近日中に早速求めてお送りいたします。徐先生のお求めになる本、何によらず、お申し越し下さい。喜んで出来る限りの事をいたしたいと存じます。たゞ文字通り微力で、私自身に購書の余裕がありませんので、おはずかしい次第ですが。

牧水はなお捜して送ります。少し心当りがございます。

甚だお手数でございますが、左記のものをおねがい申し上げます。

○『魯迅日記』二帙

○『魯迅書簡』コロタイプ版 一冊

（近刊の二冊本はすでにお送りいただきました）

○『毛沢東選集』

○『鲁迅全集補遺』

○『 』 續編

○范文瀾『中國通史簡編』第二冊以下（中註十冊）

○王瑤『中國新文學史稿』下冊（中註十冊）

私は目下、岩波の『鲁迅選集』の翻訳でかなり忙がしい日々を過しております。今までにやっと『墳』一卷、『准風月談』『花邊文學』一卷、及び『兩地書』の後半にかゝりますが、『且介亭雜文』一二三集、一卷、と『日記』『書簡』『集外集補遺』等で一卷、これだけが控えております。各一冊を殆ど一ヵ月位で訳了しなければならぬのですから、始めから大体無理な話であります。おはずかしいことです。

目下当地は入学試験のシーズンです。どの学校も十倍二十倍の競争率で、せまい土地に一億ちかい人間がひしめき合っていることを如実に感じさせられます。私どもにとっては又納税の期日でもあり、この重圧は思っても気が遠くなる位であります。中国ではもはやこの苦しみはないだろうと思えます。今日はこれだけにいたします。さようなら。

三月五日 松枝茂夫

周作人先生

北京あてに送りました小包はみな無事に着きましたでしょうか？

以上は三月五日に書いて、出さないでしまったのです。自分のずぼらを恥かしく思います。三月十三日に、小包二個送りました。

一つは『広辞苑』一冊

一つは、『東京むかしむかし』

『やんちゃ孤独』

『牧水全集 小品随筆（1）』

なお次のものを求めてお送り下さいます様おねがい致します。

○『独幕劇選』 人民文学社

○『骨董瑣記全編』 三聯

○『懋齋詩鈔』

○『四松堂集』 紅樓夢関係書

○『春柳堂詩稿』 第一〜九種

……

○『主婦手記』

書き落しましたが、さきに岡田甫氏に、先生のお手紙の趣、つたえましたところ、大変に感激した手紙をよこされ

ました。そして、「こんなことを申上げては甘えているようですが、もし周先生がお気が向いたとき、小生のために何か額にでも出来る詩文でも大きく書いて頂けないものか、それを貧しい書齋に飾ることが出来れば幸甚この上もありませんが……」と洩してございました。

とりあえず、右お傳えいたします。

入学試験や何やかで、三月の休みも大半をすごしてしまいました。生活のために相変らず追われて、ろくろく讀書もせずはずかしくなりません。

三月二十三日

お彼岸の日

追伸

『啄木案内』、本日、岩波から直接おくる様たのんでおきました。市上では殆ど手にはいらぬのです。

○葉丁易『現代中國文學史』

という本、ほしいのですが、もしあれば二部お送り下さる様、ご依頼申し上げます。

19560330Z 【周作人↓松枝茂夫】（葉書）

拜啓 下記各書之費、心購寄集爲幸。

一，長塚節（岩波文庫）

『炭焼の娘』

一，永井荷風

『冷笑』

『雪解』

一，三遊亭円朝

『牡丹灯籠』

一，坪田譲治（新潮文庫）

『鶴の恩返へし』

一，波多野完治

『十五少年漂流記』

以上

19560407Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓 三月二十三日手書誦悉。賜寄書籍二包，不久亦到。『廣辭苑』已轉交徐君，算作新幣十六元。交鄙人代爲辦理購奉書籍。計已寄上『魯迅日記』二函，又『全集補遺』並製無有二冊，『骨董瑣記』一冊，丁易『文學史』及『毛選集』等容買到再寄。『四松堂集』等九種紅樓夢資料，本由文學古籍刊行社印行，及往新華古典門市部去買，則云已停止出售矣，因前有人在報上批評⁽⁶⁰⁾，此等書不值得影印之故，擬寫信給報館建議，批評固正確，但應在出版方針上訂正，

已印之書停售亦屬浪費物力，正應仍舊發售，以供需用者之求。批評者謂應摘錄彙印，此固是正辦，但既未彙印而驟然停售，良可謂因噎廢食矣。『魯迅書簡』影印本目下市上殆不可得，已函魯編室“同志請助，如有什麼地方可買，當再設法，但如該室能協力，贈與一冊，則更佳矣。又『廣辭苑』甚佳，豐一亦欲得一冊分冊的辭書，不便於用，可否請再費心為購寄一部，至為感荷。由東京直寄之書，均能收到，較轉寄更為便利矣。草草。

松枝先生 四月七日 作人

(欄外に追記)

『主婦手記』⁽⁶¹⁾不易找，希望以出版所或著者名見告。

19560409Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓 下記之書乞費神購寄為幸：

- 一，安倍能成 『山中雜記』
- 二，野田宇太郎 『新東京文学散歩』
二冊（以上角川文庫）
- 三，羽仁五郎 『日本人民ノ歴史』
- 四，栗林農夫 『俳句卜生活』
- 五，關敬吾 『民話』
- 六，高津譯 『古代ノ書物』

(以上 岩波新書)
七、長塚節 『土』二冊

(以上 岩波文庫)

19560410M 【松枝茂夫↓周作人】

拝啓

軽い風邪で臥せています床で、お送り下さった『人民首都的天橋』と『且介亭二集』たしかに受取りました。まことに有難う存じます。天橋は昔好んで遊んだ地で、大変面白く拝見しました。私の周囲にも天橋に興味を抱いている人は幾人もございます。きっとこの本を見せたら欲しがるだろうと思います。新華書店系統の本は東京にも内山書店はじめ三、四軒からある中国専門の書店で割合容易に手に入りますが、この種のものになると、全然その書名さえ知る手がかりがございません。

本日、別便で書籍一包送ります。

内容は左の通りです。 九冊

○『雪解』 荷風

○『冷笑』 荷風

○『牡丹灯籠』 円朝

○『鶴の恩返し』 坪田譲治

哭

○『十五年飄流記』 波多野完治

○『柳の葉末全釈』 岡田甫 六八〇円

○『古川柳辞典 第一巻』 根岸川柳 武藤禎夫氏より

○『笑府研究』 武藤禎夫 寄贈

○『近世庶民文化』 31、32合併号 —— 岡田甫より寄贈

右のうち、『柳の葉末全釈』は普及判で、この上に更に限定版があるそうです。『古川柳辞典』は恐らく第一巻きりで、第二巻以下は出版しないかも知れぬとのこと。武藤氏は校正者である関係から貰ったのです。『炭焼の娘』はこの次おくりです。浄瑠璃も、

なお、『近世庶民文化』は、30号は送りましたでしょうか？若しまだなら、送りますから、どうかお知らせ願います。（私失念しました）

それから三月十三日に送りました書籍二包（『広辞苑』など）は届きましたでしょうか？

今日あたり、東京は櫻が満開です。拙宅の近所の碑文谷公園の櫻も、門口に出ると、見られます。一昨日の日曜はちょうど花見時でしたのに、あいにくの冷雨で、雨にぬれながら花見酒によった人々の写真が新聞に出ていました。四月一日には三分咲きの櫻が積りました。何しろへんな天気がつづきます。

お大事になさいます様いのります

四月十日

松枝茂夫

周啓明先生

19560415Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓 今日收到岩波書店寄贈之『啄木案內』一冊，謝謝。⁽⁶²⁾啄木的詩歌在一九二一年頃曾譯過若干。現擬慢々譯出其分行⁽⁶¹⁾的二歌集，交與人民文學出版社。此事至難。但不敢推諉，擬於一二年內以餘假成之。關於此事須請大力幫助，即是請代留心尋找資料，特別是說明啄木的歌與人的關係的。記得溝口白羊有過「啄木を繞る人々」一類的著作。如能找到，祈代購一二。但亦不必急々也。紅樓夢資料九種停售。今日寫信給人民日報社，請其轉致有關機關，改變辦法，仍可售與需用此種資料之人。大概可望成功，但須稍等幾時耳。舊購二三種前清小說，閱後無用，便以奉贈。雖現今未必適於翻譯。但當作閒書看亦頗有趣，特別是『官場現形』與『怪現狀』。阿英之『晚清小說史』亦可供參考。亦有一冊可以奉贈，前由港轉寄『文學遺產增刊二集』及『選集』，似未到香港，日後亦當補購一同直接寄上也。草草不盡。

四月十五日

作人

松枝先生

19560423Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓。十日手書拜見，承寄來之書大概月內可到吧。岡田君囑寫字，遲遲未敢獻醜，今日始寫大小二紙，大抵係錄舊作，咏兒童所玩之花紙^{新書之}原有小註，另紙抄上，否則更不易明了也。聊以塞責，乞費心轉交，硯^硯墨^墨筆^筆均佳，惜字不行耳。『庶民文化』收到二十九期。第三十期，乞爲轉請岡田君賜予。『魯迅書簡』影印⁽⁶³⁾本久絕板，魯編室“亦無有，既託人在舊書店尋找，說不定可以遇到，但亦不一定耳。武藤君贈書，祈先代致謝意，日後容再去信致謝。匆匆不盡。

松枝先生 四月廿三日 作人

19560506Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓

十日航空信拜讀後，於二十三日寄一復信。內附拙書二紙，因分量過重，未寄航空，想此信到後亦已可達覽矣。『魯迅日記』及『全集補遺』等未知均收到否？一月未有『文學遺產增刊二集』等由香港轉奉，乃中途遺失未到香港。今先將『增刊二集』及『文學研究集刊二集』各一冊找到，另行直接寄奉。又武漢大學教員劉綬松其所著講義『新文學史初稿』二冊亦新出版，寄上以供參考。又阿英『晚清小說史』新刊訂正本，在同類書中可稱白眉，與新西蘭人編譯『中國古詩選』一冊係外文出版社見贈本一併寄呈，題名『Peace Through Ages』。似亦是一種看法也。『毛澤東選集』三冊作一包寄出，第四冊未刊行也。『人民畫報』三、四期亦均收到否？如中有遺失，祈見告以便補購。十日信中所說承費心寄出之書九種，大約日內可到，現今書籍郵寄，速時三星期可到，但亦可能遲延。時令已交夏季，而氣候尚頗冷，在室內未能脫去棉衣。在東京則已是看花時節矣。匆匆不盡。即請。

松枝先生 台鑒

五月六日

作人

19560509Z 【周作人↓松枝茂夫】（葉書）

拜啓。日前得有光書房通知，『未摘花詳解拾遺篇』將於五月下旬刊行，乞費心代為注文一冊（並製，不勝感幸。草草不盡。

松枝先生 啓明 五·九·

19560515Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓 四月十日所寄出『川柳の葉末』等於十三日收到。二十一日所寄『廣辭苑』及其他九冊一包，則在十五日即已送達矣。多費精神，不勝感荷。武藤君賜書乞先代爲致意道謝，『笑府研究』裨益良多，因舊編『笑話選』擬改編爲『明清笑話集』，笑府原書不可得見，根據武藤君研究，對於舊選亦可有不少改正也。日前寄上『紅樓夢討論集四』及『文學遺產增刊』，『文學集刊』第二輯各一冊，『文學遺產選集』一輯亦已購到，容下次再寄。又『四松堂集』等紅樓夢資料，經原刊行社給予紹介信，向新華書店辦好交涉，已經買到，但只有五種，另行寄奉。據云本來尚有二三種，但現在恐未必再影印矣。其中間有『曹氏奏摺』當是曹真的吧似亦無多大價值也。別紙開上書目，仍乞費心代購。『魯迅日記』於上月四日寄出，希望已經遞到。匆匆不盡，即請

松枝先生台鑒

周啓明

五月十五日

- 一、『ラインケ狐』 岩波文庫
 二、柳田国男『一目小僧』 角川
 三、『木棉以前のこと』
 四、『國語の将来』
 五、『遠野物語』
 六、『日本の伝説』

七、 『日本の昔話』
八、 早川孝太郎『猪鹿狸』

19560527Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓 四月四日 前寄上『魯迅日記』二函、『全集補遺』二冊、及別の書籍、未知均能收到否？頗以爲念。望便中示及。『廣辭苑』及文庫多冊、均已到了。費心多謝。前因擬爲人・文・社選擇『啄木詩歌』一冊、可否請代購『啄木詩集』二冊、併岩波本、併代留意說明啄木歌中的人的參考書、代爲蒐集一二。這之後或將著手『一茶選集』、則至早須俟明年耳。又朝日新聞社出版了^{ヌエルト}『東京誕生記』、亦乞購寄一冊爲荷。

松枝先生

五月廿七日

周作人

四月廿三日寄去爲岡田君所寫一紙、想已蒙收到了。

19560605M 【松枝茂夫↓周作人】

拜啓

又々大変なご無沙汰いたして、まことに申訳ございません。書きかけた手紙、それも一と月以上も前のを出してみて、恥じ入っております。

お送りの御本、全部無事着いておりますから、どうか御安心下さい。まことに有難くお禮申上げます。

『魯迅全集補遺』二冊、『兒童文學選』、『魯迅日記』二函、『毛澤東選集』三冊、『獨幕劇選』、『Peace Through Ages』、『中國新文學史初稿』二冊、『晚清小說史』、『文明小史』、『廿年目睹之怪現狀』二冊、『官場現形記』二冊、『高蘭墅集』、『四松堂集』、『春柳堂詩稿』、『懋齋詩鈔』、『綠煙瓊窗集』、『文學遺產增刊』二冊、『文學研究集刊』第二冊、『古今小説』、『人民畫報』、『骨董瑣記』、『紅樓夢問題討論集』一、二、三、四、『且介亭雜文二集』、『西遊補』、『東郭先生』も。

要するにお送りいたした分は全部着いていると思います。ご返事を怠ったばかりに大変ご心配をかけてほんとに申譯ございません。

それから岡田氏のために、お書き下さった書、説明書とも三枚、さっそく届けましたところ、岡田氏は大変よろこんで家寶がふえたといっておられました。よくよくお禮申上げてくれとの事でした。その折、詩の解釈をさせられて、大汗かきました。御説明書によって二詩の方は何とかごまかしました。もう一つの詩の方は「無生忍」という語がわかりかねて、あとで調べて…との事にしましたが、まだ調べきれないでおります。どうかお教えねがいたく存じます。

さる五月廿三日に、十冊一包お送りいたしました。

『ラインケ狐』、『木棉以前の事』、『日本の伝説』、『国語の将来』、『遠野物語』、『日本人民の歴史』、なお、『庶民文化研究』二九、三〇（岡田氏贈）、『狂言』⁶⁴（古川氏贈）、『魯迅選集』二冊（小生贈）

私の方から、お送りした分も割合早く、確実に、お手許に着いております様で安心いたします。

近日中に、又一まとめして、お送りするつもりです。

昨年から引續き、『魯迅選集』のために本屋から矢の催促の受け通しで、身も細る思いで——實際やせてしまいました。ない智慧をしほり、乏しい力をふり立てて、随分無理をしております。いよいよ出はじめましたが、ごらんの通りのていたらくで、甚だまずいものが出来上り、はずかしく思っております。御叱正ねがいたく存じます。ま
ちがいだらけでそんなことがいえるところではありませんが。

東京はこの頃雨ばかりつゞいて、すでに梅雨にはいったらしく、鬱陶しい毎日です。昨日めずらしく晴れたので、子供づれで早慶戦（野球）なるものをはじめて見に行きました。久しぶりに緑の野外に遊び、日光にさらされて、急に元気を取戻したような気がいたします。

去る卅一日、歌舞伎座で梅蘭芳一行の京劇を見ました。「鬧天宮」が面白うございました。

そろそろ暑くなって参ります。御地はもう夏ではないでしょうか。おからだをお大事になさいます様、いのつてお
ります。

六月五日

松枝茂夫

周作人先生

19560615Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓 五日來信誦悉，承寄下各書亦已收到。費神至爲感謝。拙譯狂言承古川君注意，甚爲感荷。『狂言十番』適尙存舊本，以一冊爲贈。另行付郵，請費心代呈。『魯迅選集』二冊謝謝。出版可謂神速。昨日人民文學出版社魯（迅著作）編（輯）室王士菁君來訪，云尙未見，因借去一看。去年出版社於『浮世風呂』之外，併問及落語之翻譯，近日少閑，因試譯「心眼」一篇，作爲「見本」送去。如以爲合式或擬續譯下去。但因客觀條件（時代與社會風俗不同）關係，選擇材料比較不易，有些很好的東西因講的吉原事情不大好懂，只好割愛。（又如「寢床」之講義太大，亦是一例）不知『落語全集』除前見賜之松竹二冊外，其餘各冊尙能找到否？如有別的亦好，祈乞費神留意爲幸。承問，無生忍“，那是無生法忍之略，係佛教用語，據字典解作”真如法性，無生無滅ヲ認知シテ安住スルコト“實在是很理念的話。所謂”悟得“原來也只是虛辭耳。可發一笑。北京近來多雨，差不多已像入雨季了。匆匆不盡。

松枝先生

六月十五日

作人

下記書二冊乞費神代購：

（岩波新書之內）

森島守人著⁶⁶⁾

1. 『陰謀・暗殺・軍刀』
2. 『真珠湾・リスボン・東京』

19560701Z 【周作人↓松枝茂夫】（葉書）

拜啓 下記各書乞費神代購爲荷。

岩波寫真文庫：

『日本の庭園』

『木曾』

朝日寫真ブック：

『トカラの島々』

『十和田の四季』

講談社アートブック：⁶⁷⁾

『廣重』

『歌麿』

（『北齋』已有）

19560707Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓。十五日一信，想已蒙察收矣。今日寄上『歐陽予倩劇作選』一冊，乞查收。此外有何需要，幸祈示及。改編『明清笑話選』，據外文出版社來人所說，已決定在年內開始選譯（英文），併云在上海找到『笑府』一部六冊，將來擬借用改訂，選取當可較多，惜明刊『開卷一笑』終不可得見耳。落語試譯一篇（安岡鶴夫著『落語鑑賞』中之「心眼」），

經文學出版社閱過，云亦擬出版，本年於『悲劇』翻譯之暇擬着手於此，唯安岡書中至多才能譯一半有些因風俗不同之故不易解，亦即不易譯。如有別的落語資料，尚乞費心代為收購，費心至感。出版社近頗熱心於日本古典作品，現聞在找錢稻孫譯『源氏』，找傅仲濤譯『淨瑠璃』，此事極好，但亦極艱難耳。北京今夏多雨，因此天氣甚涼，東京想已大熱了。兩三年前見書目上有『夢二畫集』出版（龍星閣發行，價四五〇），不知現今尚可得否？便中乞費心一問。在東京留學時初見『夢二畫集：春の卷』，至今尚不免留戀，亦可笑也。匆匆不盡。

松枝先生 七月七日 作人

19560818Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓。久未問訊，想起居佳勝爲慰。承寄下“廣重”等大小書九冊，費心多謝。『落語全集』已得全部，唯選擇爲難，尙未能決定也。上月中收到『中學國語』全部九冊，係由出版所寄出，未知何人所贈，編輯人中有今村君，未知係今村君的好意乎？拙文「論語小記」承選入爲參考資料，其實則無什麼可取，殊爲慚愧。今年魯迅逝世二十年紀念，國內刊物漸見活躍，來我處索稿者多，苦於無法應付，因我所寫係報告事實，資料有限，無法多寫，但不得已亦非應酬不可，已寫了兩萬餘字，看來紀念過去，我可以“托蔭”寫成一冊小書，目下已有出版社來預約，可謂敏捷矣。在紹興之魯迅紀念館約我去看一趟，大概有些物件要託“鑒定”，我得公費旅行，一看現今的百草園，亦甚樂意，惟因天熱，且江南浙東多蚊，以是遲延，擬候天氣稍涼再去。別紙有幾種書物，還請費心代購，先生需用書刊亦祈示知，以便購奉。古川先生承賜所著『狂言の研究』⁽⁶⁸⁾，已直接去函道謝矣。匆匆不盡。

松枝先生 八月十八日 作人

岩田九郎著 有精堂

新潮文庫

『川柳評釋』

坪田讓治『風の中の子供』

吉田機司編 綠地社

『子供の四季』上下

『現代川柳』

岩波寫真文庫

『富士をめぐる』

『四国遍路』

『村の一年』

『佛陀の一生』

19560823Z 【周作人↓松枝茂夫】

松枝先生：

七月廿一日寄上一信，想已蒙收到。胡風集團在現今成爲嚴重問題，曾將資料數種寄奉，其第五、六冊亦已送上矣。

『人民畫報』七、八月份亦已寄上，想一直均已收到，不至遺失吧。此外不知需要何種書物，希望示知，以便源々寄呈。

近見有光書房廣告，有下列一書：岡田甫著，『川柳末摘花詳釋』上、下各一卷並製，代價三五〇円宛，乞費心於便

中代購一部。

又”朝日寫真ブック“中有下列二書：

1. 『琉球ノソノ後』

2. 『中華人民共和國』，亦祈各購一冊。前曾代買『浮世風呂』註解，現今已得其用，由人民文學出版社委託翻譯（擬先譯前二編），預定年內交稿，或明年可以付印乎。匆匆。

即致敬啓 八月廿三日 周啓明

19560905Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓 久未通信，因近來應各報雜誌之求，寫魯迅紀念文，一個月中胡亂寫了四五萬字，係“應需”趕寫者，內容不免是八股，大概在九月中旬均可刊出。以後結集爲一小冊，題名『魯迅的青年時代』，已由青年出版社約定出版。但原係“際物”，除一二篇外亦不足觀也。落語承蒐集全部，甚爲感謝，唯選擇翻譯爲難，能否譯成尙無把握。曾試譯「心眼」一篇，寄給出版社審閱，卻蒙通過，併約明春着手選譯，殊無自信。出版社目下甚希望多出些日本現代以外的作品，而譯者難得，未能實現。近在找錢稻孫譯『源氏』，未知能有成否。又承寄下『啄木寫真帖』，啄木詩歌亦由出版社囑譯，而啄木歌近來愈看愈難譯（難在譯出了便沒有多少意思了）。以此亦未知何日可以着手耳。草草不盡，容再談。

松枝先生

九·五· 作人

19560911Z 【周作人↓松枝茂夫】（葉書）

拜啓。下記書籍據蘇聯民族學雜誌，批評頗佳，因欲一讀，祈費神代爲購寄是幸。

一、和歌森太郎著

『日本民俗學』弘文堂出版

19561024Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓。久未通詢，九月中因“全國文聯”之邀，往西安參觀，本月中才回北京。承寄下『星取り棹』等書，費神多謝。茲因小孩們之請求，請爲便中蒐購舊郵便切手（如無舊者，則新者亦可）^{無消印者}二十種，別紙開呈，祈賜鑒察。此次魯迅紀念會，長與、里見、內山各位先生前來與會，均得一見，甚爲欣幸。⁽⁷¹⁾商品展覽會亦往一看，惜小賣供不應求，無從買得耳。

松枝先生 十月廿四日 作人

19561115Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓。久未得來信爲念。承代購圖書甚感。『夢二』等亦已收到矣。許久未見御注文，未知有何需要，乞隨時示知。茲又有一事奉煩，乃是書籍以外之事。未知能行否？聞中日間小包可以通郵，以一キロ爲限。可否便中一爲打聽，如果可能，擬請費神在藥店一問，近出糖尿病特效藥Diabator可否買到？乞代購在一千元以內之藥品，由郵便寄下。但如有困難，即可罷論。承惠贈『魯迅選集』，先後均已轉借給人民文學出版社了。近刊『日記』一二九中有說及馬理子一條⁽⁷²⁾，註中解爲馬裕藻之女，乃系錯誤。馬君有女名馬理，此日記中所說乃是周建人之長女，小名マリ。馬理乃アテ字。她的學名爲鞠子。後改名爲菊梓矣。人民文學社本全集已出一二兩冊，所註亦不能無誤。如“荆生”^{林琴南小說中主人公}不知系指徐樹錚，註以韓文“識荆”爲據。既是其一。

松枝先生

十一・十五

作人

19561119Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓。十五日寄一信，奉託代找糖尿病特效藥チアベトン，唯據醫師說新藥性能未詳，或未便試用，因此特再通知，可請作罷爲要。今年魯迅紀念，應報刊之需寫了些文章，編爲一小冊，交青年出版社刊行，大抵多已說過，無甚新義耳。草草不盡。

十一月十九日 周啓明

松枝先生

19561206M 【松枝茂夫↓周作人】

拝啓 随分長い間御無沙汰いたしました。

甚だ申し訳なく存じております。

お送りいただきました書籍すべて受け取りました。有難う存じます。

『魯迅選集』の仕事がこの程ようやく終了いたしました。一年ぶりにホツとしているところでございます。その間、全く気持ちの余裕がなくて、お手紙一つ差し上げなかつたような仕末でございます。

色々とまずいところが多く、今になつては、あ、すればよかつた、こうすればよかつたと思うところばかりです。

力の不足はどうにもなりません。中国の方で註釈本が出ましたようで、それによれば尚いろいろ教えられる所が多く、私共の誤りも沢山発見されることと存じます。先日のお手紙に馬理子の註のあやまり、お教えいただき

まして有難うございます。次の機会に訂正させていただきます。私もどうもおかしいと思っていたところでした。

先日のお手紙にデアベトンのことがございましたが、さっそく薬店に聞いてみました。この頃はあまり賣り出していないとかで、中々わかりませんでした。成分を書いた紙を別便でお送りいたします。最近では糖尿病の薬は、新薬がいくつも出ていて、デアベトンは、あまり出ていないので、知らないという薬店もありました。メゾキサンという新薬が、この頃は出ているとかで、そのサンプルを貰って来ましたから、試みにお送りします。小包便は、郵便局にたずねましたら、やはりまだ通じていないと申しております。

しかし何とか方法はあるのではないのでしょうか。中国に行く人に託すとか、或いは香港経由にするとか、いずれにしても、御心配なことで、はやく何とかお薬をお送りしたいと思います。

小包便、いずれは近く開通する様になるそうですが、それまで香港に御知人の方をお依頼下されてはいかがでしょうか。どうかくれぐれもお大事になさいます様いのっております。

左記のもの「御注文」いたします。

どうかよろしくおねがい申し上げます。

・『世説新語』尊経閣影印本 やはり欲しくなりました。

・『東京夢華録』上海古典文学出版

・『詩経試訳』李長之

・『金元戯曲方言考』徐嘉瑞 商務

・『桑園読書記』鄧之誠 三聯

・『散文集』李広田 作家出版

・『葉聖陶童話選』中国少年兒童出版

・『西藏民間故事』通俗読物出版

・『説不完的故事』〃

・『僮族民間故事』〃

・『維吾爾民間故事』〃

・『國王吃糠』〃

・『國王和醫生』〃

この類のもの、中国のものもこめて、何でも結構です。以前に『阿詩瑪』をよんで大変面白いと思いました。

・『魯迅全集（註釈本）』、できたら精装本

以上

周啓明先生

松枝茂夫

19561221Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓。六日惠函誦悉。『魯迅選集』二冊『案内』一冊及郵便切手一袋收到，費心謝謝。所需『魯迅全集』託人向市上尋找，杳不可得，因向新華書店注文，未知爲何，最後或當託出版社，想可分得一部。此外各書容日內往東城去找，近十日因感冒臥病尚在靜養中，預計過了新年當可外出活動矣。先此奉復。

松枝先生 十二月廿一日 作人

19561229Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓。六日手書及『魯迅選集』三冊均已收到。嗣又得惠寄之メゾキサン一瓶，費心至爲感荷，此藥擬一試，還乞代購一百片者一瓶，由小包郵便寄至香港，託友人代收轉寄，其地址爲“香港九龍約道十一號何儀先生收”，但因藥品到北京須由稅關課稅，須得表明價格，以便核算，藥包上想當印有官價欸？內人患糖尿病並不重，但既有此口服之新藥，故亦願一試之也。需要之書經訪求一項，所得殊少，計只有『方言考』一、『葉童話』一、『維吾爾故事』一，此外見有『文學研究集刊』也買得一冊，乃是第四，至於第三現已無有，容日後隨時訪之，餘書亦當隨時上市去看，當能遇見。『魯迅全集』已向新華書店登記，聞下月中可有一批增印之書出版，可能得到，登記的是精裝本，但恐也只是一種布面而已，用紙未必佳，初板有稍佳者都早已售盡矣。魯迅對於書籍印刷裝幀極是注意，今則甚是隨便，即如魯迅自己之文集也印得不講究，即此亦可以說魯迅的遺風失傳了，甚爲可惜。草草不盡。

松枝先生 十二月廿九日 作人

一九五七年

19570110Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓 國內近來書籍供不應求，搜集爲難。尊需各書未能齊備，容再尋找。報載上海有『詩詞曲語辭彙釋』張相，上下二冊。似頗豐富，不久當可到京中乎？『魯迅全集』間將加印二萬冊，而是用報紙印者，且市面上恐亦不易入手。曾向新華書店登記，亦無消息。日前函告人民文學出版社魯編室之友人，昨晚來訪，帶來大本全集第一至三，囑爲寄奉。今日以二冊付郵，明日再寄一冊，請查收。以後大概每月可出一冊，屆時由出版社直寄。或仍由我轉致亦未可知。『魯迅選集』承賜甚感荷。一時借給魯編室。又轉借給魯迅博物館。於開館時展覽。現已告知即轉贈給了博物館矣。『世說新語』云有影印本（想重印尊經閣本？），只值四五元，亦頗想得一部，而市上無有。只可隨時出去留心耳。匆匆不盡。

松枝茂夫

一月九日

作人

再，『夢華錄』及張相氏著書已買到，別封寄上，請查收。
又，左列郵票切手乞費心代購：

壹

一、公二五⁽⁷³⁾

一五

一一、記一三〇

六〇

二、公二六	二〇	一二、記一三一	六〇
三、公二七	一〇〇	一三、記一三六	二五
四、公二八	一二〇	一四、記一七六	二〇
五、公三〇	二〇	一五、記一七七	二〇
六、公三一	三〇	一六、記一九二	二五
七、公三二	四〇	一七、記一九三	二五
八、公三三	五〇	一八、記一九五	三五
九、記一二八	六〇	一九、增五	三〇
一〇、記一二九	六〇	二〇、增六	三〇
			以上
			845

十日 作人再啓

19570114Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓。日前寄出書籍四包，想已蒙查收。人民文學出版社副社長見訪，囑準備編選雜文，擬於下年度爲刊行選集數冊。政府之好意甚可感，唯因無自信，自選殊感困難，幸時日尙寬，可以慢慢打算耳。當時說及『文學集刊』之三，遍覓不可得，承其由出版社賜寄一冊，已付郵寄上矣。近來購者增加，而紙張缺乏，印數未能多增，以此造成缺書的現象，

如『世說新語』至今尙未能找到也。爲說明『文學集刊』事，故寄此信，匆匆不盡。

松枝先生

一月十四日 作人

19570119Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓。日前寄信，想已承察覽矣。朱居易著書(79)由友人王古魯君代索得一部，已直接寄上。近承曹聚仁君（以前在上海各大學任教，事變中任新聞記者，現在香港爲南洋商報新加坡特派員）寄贈所著書，有『文壇五十年』，看法與正統派稍異，或有可供參考處，今日已付郵，請查收。又著有『魯迅評傳』上下二冊，亦在香港出版，觀察似較近真實，如有用所不及，亦當寄奉，在日本想難得讀到也。茲有一事奉託，因人民文學出版社囑譯『古事記』，而資料無有，可否請代找一二適用之書（在文字訓解上譯有口語及考證上神話傳說相當明確者），過去曾利用次田潤著『古事記新講』，想已不可得矣。但過於詳細的考證也不適用，乞費心酌選之爲幸。選譯『落語』出版社雖有此希望，但因苦於選擇及譯述爲難，恐只能暫且放棄矣。草草不盡，此上。

松枝先生 台鑒

一月十九日

作人

19570127M 【松枝茂夫↓周作人】

拜啓

又々ご返事を怠けてしまつて、相済みません。お手紙つゞけて拝読いたしました。また『画報』二冊、本日また『文學研究集刊』（4）、『金元戯曲方言考』、『維吾爾民間故事』、『葉聖陶童話選』の四冊、受取りました。それから王

古魯先生を通じて、『元劇俗語方言例釈』を著者朱居易先生から頂戴いたしました。まことに御配慮ありがたく存じます。

先生の散文選が新しく出版されることになりました由、何よりもうれしく感慨深いものがあります。

奥様の御病気さぞご心配の事と存じます。旧臘、北京に飛ぶ人がありましたので、その伊藤万商店につとめる矢崎氏という人にちょうどよいついと思ひ、メリトス錠二箱おとどけする様たのみましたが、果して着きましたでしょうか。本人はまだ帰つて来ませんので確めようがありません。

なお間接に癌研究所々員で糖尿病の専門家にきいて貰つたところによりますと、日本でできる糖尿病の薬は、小野薬品のメリトスにしても、興和化学のインベンノールにしても、またこの三月に山内製薬で新発売の薬品にしても、みなドイツのヘキスト、ベーリンガー、等の薬を使つて製造したものだそうで、そのドイツの薬は「BZ55」というのだそうです。そしてこの薬は香港經由で日本に輸入されているものですから、香港で買えば、二重、三重の関税を払わなくてもすむということです。

それですから、香港から、その「ビーゼット55」をお求めになつたらいかがでしょうか。

以上教わつたままをお知らせ申します。なおもつと詳しいことが判りましたら、この次に書きます。

又、先日新聞広告で岡田氏『末摘花評釈拾遺篇』の出版を知り、街の本屋をさがしましたが見つかりませんので、岡田氏を訪ねてき、ましたところ、これは市販しないとのこと、函が気に入らないから作り直させているそうで、来月中旬頃、同氏の新着『古川柳艶句選』と一緒にお送りできるかと思ひます。後者は『万句合』の中から『柳多留』や『末摘花』に未収の艶句を抜萃したものだそうで、削除なしの本を周先生に差上げたいといつておられます。(市販本は相当の削除がある由)、雑誌もそれと同時に送ります。

去年は一年『魯迅選集』の翻訳で匆忙の中にくれ、月に二冊の出版の大変なこと、身にしてみても感じました。全く日本のジャーナリズムほどせっかちなものはないだろうと思われます。岩波書店にしてこの通りです。爾餘の書店はさらに輪をかけて恐ろしいものが多いのです。今年は何とかして少し読書の余暇を得たいと思っています。しかし何しろ苦しい生活、果してうまく行きますかどうか、多分やはり似たり寄ったりでありましょう。今年は『水滸伝』の少年版を一冊書くことになっています。俸給だけでは半月も暮せないのですから、全く大変です。私は目下、荻窪の近くに小さな住宅を建てています。三月の末には移れる予定です。現在の借家は月一万二千円の家賃で、これは私の月給の凡そ三分の一以上に当ります。それで大決心をして、方々から金を借り集めて三十三、四坪の家を建てることになったわけですが、そこへ移れば、いくらか気分も変って勉強も出来るかと、楽しみにしております。切手二十枚同封いたします。八四五円也の由、なお前にお送りしました『啄木写真帖』は特価本で三五〇円です。この種類の本で安くて立派な本がいろいろあるようです。この頃は書籍の「御注文」が一寸とだえたようですが、御病気はいかゞでしょうか。お大事になさいますよう、遥かに祈っております。

一月二十七日 松枝茂夫

周作人先生

東京はこの冬は雪はおろか、雨一滴ふらず、何十年ぶりの暖冬です。春のようなポカ／＼した天気は四十日以上つき、今日も外をあるくと、汗が出て、外套など着ておられない位です。空はカラリと晴れてまだ／＼この天気はつづきそうです。北京はいかゞでしょうか。

19570203Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓。接奉二十七日手書，併郵票二十枚，費心甚感。又承代辦糖尿藥，尤爲感荷。矢崎君想已抵京，收到藥品時當再告知。承示BZS5，當託在香港友人尋訪，未知能獲得否。日前寄上『魯迅全集』一、三各一冊，又『文壇五十年』一冊，想均已收到。今又寄上同著者（曹聚仁）之『魯迅評傳』上下二冊⁽⁷⁶⁾，頗有獨到之見，唯是非正統派的立場，故只可供個人之參考耳。別紙開列書目，乞費心代購，不勝幸甚。中國出版界近來甚見活潑，唯因用紙不足而讀者增多，故有許多種均不易買到，如鄧之誠之『桑園讀書記』在市上迄未得見，雖然其『骨董瑣記』則各處多有，亦不知何故也。影印『世說新語』亦終未見到，雖上市常常問詢。北京冬季甚冷，比以前爲甚，近來已稍好，今日已是”節分“，縱有餘寒，想亦不至太甚矣。岡田君新著希望早得快睹，唯川柳因文字與風俗關係，幾乎無法介紹，承援助得了好些資料，只能獨享，頗有”宝の持腐“之感耳。草草不盡。

二月三日 周作人

松枝先生

一、岩城之德『石川啄木傳』第二書房

一、五十嵐力『ふるさとの民話』 〃

一、岩波寫真文庫

『一三〇 飛鳥』

『一三八 伊豆半島』

『一四五 鹽原』

『一六二 熊野道』

『一七四 箱根』⁽⁷⁾

19570207Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓。三日方寄一信，五日承矢崎君見訪，收到メリトス二箱，費心至爲感謝。『魯迅全集』一至三冊想已寄到，年前注文之分（亦是上製，而是乙種，比較贈與先生者稍小）亦已購到，如或知友中有人需要而未能購得者（聞竹内君已由鮑秀蘭女士得到一部云），可以奉讓，希便中示及。草草不盡。

松枝先生

作人 二・七・

19570301Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓 近日臥病多日，始見漸愈，唯記憶力驟減，數學力亦見障害，似非短期所能恢復，大體尙可支持，請勿遠念。但左記書物仍所需要，祈費心一辦是所最禱。『魯迅全集』已得入手一部，如貴友有尊需者可以奉寄。專此不盡。

松枝先生

三月一日

周作人

角川文庫

一、谷崎潤一郎『陰翳禮讚』

二、『幸田文隨筆集』

三、金田一京助『石川啄木』

四、金田一京助『北の人』

五、『中央亞細亞探險記』

岩波寫真文庫

一、『和歌山縣』(150)

二、『男鹿半島』(168)

三、『白浜』(171)

四、『琵琶湖』(180)

五、『日本』(183)⁽⁷⁹⁾

19570320M 【松枝茂夫↓周作人】

拝啓

御病気の由うけたまわり、ひそかに心配しておりましたが、ついつい怠ってお見舞のお手紙もさし上げず、大変失禮してしまいました。私宅でも大人数なこととて、次から次に誰やらが身体工合を悪くして、たえまがなく、去年から今年にかけて、ずっと天気つきで、ほとんど雨というものを忘れてしまったような気がする程です。そして風邪が非常にしつこく、熱は出ませんが、いつまでも、サッパリならぬ風邪で、私宅ではみなそれぞれ三べんづつ位、治ってはひき、治ってはひきしているようなあんばいです。学校の方は二月末から授業は休みですけれど、卒

業しけん、入学しけん、そのほか種々雑多の雑務で、かえって普段よりも気ぜわしく、一向おちつくひまもございません。去年の暮から荻窪方面に家を新築することにして、資金の調達から役所の届、また大工左官との交渉、どれも中々の苦勞で一寸やそつとのことではありませんでした。おかげ様で三月内には移転ができる見込でございます。そんなこんなで大変気ぜわしく、ついつい御返事を怠ってしまい、甚だ申訳なく存じます。一向弁解にも実はならないのですが。

『魯迅全集』三冊たしかにいたゞきました。また『文壇五十年』、『魯迅評伝』、これも有難うございました。いろいろ私にとって新しい事実を知ることができて、為になりました。御厚意を有難く存じます。

先日、岡田甫氏への詩箋、ちようど早稲田についてがありましたので、立寄りました。⁽⁸⁰⁾ あいにく岡田氏はお留守で会えませんでした。奥様に差上げておきました。奥様に伺ったところでは、『艶句選』はまだ出来ていないようです。『未摘花』の拾遺も同様です。何でも編集手伝いの人がやめたため、手不足ですっかり遅れてしまったとのことです。出来次第しらせるとの事ですが、又そのうちに様子を見に参ることにいたします。

なお、“打架妖精”の詩、つゞき工合がまだ私にはよくわかりません。玉体は妖精についていいますか。それと“摩登伽女”(モダンガール?)との関係がどうなるのか、そのへんのところを伺いとうございます。岡田さんにきかれると困りますから、どうかおねがい申し上げます。“万紫萬紅”の方は、どうやらわかります。⁽⁸¹⁾

次田氏『古事記新講』は新しい改訂版が出ているようです。近日中に送ります。また河出書房から『古事記』の現代訳が出ていますが、(訳者は福永氏、戦後出た新人の小説家です)これはどうしましょうか、河出書房の本は二、三ヶ月もすれば新本がすぐ古本屋に安く姿をあらわしますから、もしおいそぎでなければ、少しお待ちになった方がましと思います。もうそろ／＼出ているかも知れません。

『魯迅全集』、こちらの学生で欲しいと申しているのがいますので、どうぞお送りねがいます。これは続刊の分も引つゞきおねがい申上げます。

私は『水滸伝』の少年用よみものを依頼されて少し準備にとりか、つていますが、何か現代用の出でおりますでしょうか。若しあればおねがいしようございます。(宋雲彬氏の『潔本水滸』というのはすでに手に入れました)今日はこれだけにします。

注文はこの次にいたします。
それではどうぞお大事に。

三月廿日 松枝茂夫

周作人先生

19570311Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓。一月十日左右寄奉『魯迅全集』三冊，計可達覽，尙未有回信爲念。二月中又聞全集已可購得一部，倘貴友中有需要者，亦可讓與，祈乞賜回答爲幸。我近因勞累，又自不謹慎，不甚服藥，及往請教醫生，發生輕度血壓增長狀態，經靜養月餘，已漸就復元矣。人民文學出版社工作歐里庇得斯^{エウリピデース}後，擬翻譯石川啄木之詩歌集，此外已受託譯『古事記』，真成了民間故事中之「Jack of all trades」^一。草稿。

松枝先生

三月十一日

周啓明

再，下記書籍乞代購。

一、若山牧水『旅とふるさと』新潮文庫

一、高杉一郎『極光のかけこ』

來信所說之『文學アルバム』中，如有一、永井荷風 二、武者小路実篤二氏乞代購，如無有則，島崎藤村“亦可。

19570325Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓 此間亦流行インフルエンザ，頗爲猖獗。貴處正亦同之，想現已減退歟？拙詩解釋如下，“妖精打架“只是汎論，”摩登伽“乃是誘惑佛之大弟子阿難的姪女，茲特借用，取其有”摩登“字樣也。”玉體橫陳，味如嚼蠟“，亦佛經成語，別無所指。打油詩例如「狂歌」，只取連讀，不大好拘泥字義也。『魯迅集』三冊，另封寄上。餘冊分別寄呈。但出版殊不敏捷。『古事記』翻譯期在五八年，爲時尚早。『水滸傳』只出俗本，成爲問題。恐不足供參考者。匆匆不盡。

松枝先生

三月二十五日

周啓明

あさひ写真ブック

一、『ダム誕生』

二、『熊野をさぐる』

三、『奈良あちこち』

四、『鯨を追うて』

19570421Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓 茲又有瑣事，用以相煩。去年長與君來京，知有同人雜誌「心」⁽⁸²⁾刊行，承其見贈，讀之甚有興味，而四月號未到，（未知係郵件遺失或中斷）特請代將「心」自四月號起，代購一冊寄下爲禱。「心」之發行所爲三鷹市牟礼三五一，生成会。

四月二十一日 周作人

松枝先生

19570527M 【松枝茂夫↓周作人】

拝啓 長らく御無沙汰申上げました。そろそろ夏の暑さが近づいて参りました。その後お変りはございませんか。さきに『魯迅全集』三冊（第二次分）、たしかに落手いたしました。また去る七日には、『魯迅の青年時代』をお送りいたゞきまして、まことに有難う存じます。早速拝見いたしました。

私の方からは、さきに『古川柳艶句選』その他を送りました。そのあと十七日に『末摘花拾遺篇』その他をお送りいたしました。すでに、お受取下さったことと存じます。『拾遺篇』は一般に市販しない為、少し高いのだそうです。岡田氏から先生へくれぐれもよろしく申上げてくれとのこととございました。

金田一氏の『日本語』という本をついでに添えておきましたが、これは私よんで面白かったので、一寸ごらんに入れる気になっただけです。

『永井荷風』（文学アルバム）は未出版、『島崎藤村』と朝日グラフのもう一冊は、手に入り次第お送りします。

また「心」編輯部へは、さつそく五百円送って四月号からお送りする様依頼しましたところ、北京周先生へは引續き寄贈している筈であるが、四月号から二冊づつ要るのかと問合せて参りましたので、事情を知らせましたら、四、五月号は念の為もう一度送るからとて五百円は返送して参りました。四、五月号はもうお手許に届いていますでしょうか。

私は三月末に表記の新しい住居に移りました。

去年の九月によくの思いで、住宅金融公庫の抽籤に当り、(四年目です)それから、金融公庫にお百度をふんでメンドーナ手續をすませ、どうやら三十八万円を国家から借りられるメドがつき、一月着工、三月末に二十四坪弱の小さな家が建ちました。工事費すべて百十二万円也、何といっても安普請で、いろいろ不足もありますが、ともかくも木の香新しい自分の家、設計も自分の手でしたのですから、住宅難の今日、あまりゼイタクはいってなるまいと思つています。

しかし、あれやこれやで、この半年ばかりは、心忙しい思いをいたしました。そろそろ落ちついて勉強しなければと思つております。

五月廿七日

松枝茂夫

周作人先生

19570803Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓 久未問訊，惟起居多福爲頌。病狀頗見良好，但未能復元，精神亦未佳，不克工作，日唯優臥休息耳。出版亦未見活潑，『魯迅集』之四至今半年未出版，病中亦少出門，未見有何新著，林庚『文學史簡編上』因易，書店重板，求得一冊亦是翻板也。別記新書希便中購寄，費神至感。匆匆不盡。

松枝先生

周啓明

八月三日

佐藤春夫『釈迦堂物語』普及板 平凡社

岩波文庫『一茶俳句集』

『ゴレスターン』

角田文庫『俳句歳時記』（一より五迄）⁽⁸³⁾

19570918Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓。接到寄下『釋迦堂物語』等書二包，費神多謝。『魯迅全集』第四冊已出版，前後相去已隔一年，可謂久矣。今寄上大本一冊，係寄贈，又一冊稍小，則代購者也。拙著『魯迅的故家』等近亦改由人民文學出版社出版，『故家』中稍有增訂，寫有後記中。茲附呈一部祈查收是幸。匆匆不盡。

松枝先生

九月十八日

周啓明

拜啓。

乞代購下記書籍寄下爲荷。

一、井上翠著

『ポケット日華字典』 文求堂

十月十日 周啓明

松枝先生

19571124Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓

多日未通訊，甚是抱歉。除寄出『人民畫報』外，『魯迅全集』之四亦已寄奉，又前後寄上『詩經選譯』^{李長之}、『雅頌選譯』、『夏衍劇作選』、『中國新文學史講話』，想均陸續收到矣。鄙人近狀如恆，血壓照常，但翻譯工作已經停止，近唯整理『悲劇』舊譯，預備付印耳。另紙所開書籍，希便中代購寄下爲荷。北京天氣頗冷，昨今已下雪耳。匆匆不備。

松枝先生

十一月廿四日

周作人

『動物園のけもの』

『ククの鳥』

『歌舞伎』

『日本の人形』

『伊豆の大島』

岩波寫真文庫

『島崎藤村』

『永井荷風』

日本文学アルバム

19571202Z 【周作人↓松枝茂夫】（葉書）

拜啓。左記之書籍希費神代爲購寄是幸。

一、『私の赤ちゃん』

婦人畫報社出版

十二月二日 周啓明

松枝先生

19571218Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓 日前寄奉書籍想均收到。近又見『沈從文小說選』頗有廢名之作風，而無其晦澀之缺點，故亦以寄閱，又廢名等人近亦有小說選之出版，日內亦擬寄奉。近日新作亦有擬收集者否？尙請示知，以便訪問。鄙人近狀如恆，血壓亦

能維持現状，惟記憶大壞，特別是數學，幾無所知矣。草草。

松枝先生

二月十八日⁸⁴⁾

周作人

右記書籍乞代購寄。

岩波寫真文庫

『一八七 東海道五十三次』

『一九九 小供は見る』

『二〇一 東京都』

『二〇九 日本（一九五六年八月十五日）』

『二二一 北京』

『二二二 江南』

『二二三 四川』

『二二四 廣州 大同』

子供文庫（中央公論社⁸⁵⁾）

『一一 炭焼長者』

『一八 藁しへの王子』

『二五 上の爺さまと下の爺さま』

一九五八年

19580224Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓

前寄信併書報，想均蒙察收，未得來書爲念。今又有極瑣事奉煩，日本橋之第一製藥會社，戰前出有テラポール(Therapol)錠劑，內人偶用^{治療道炎有效}殊有效驗，今不知尙有否？祈費心查問，如目前市上尙能買到，乞代購百粒者一瓶，「見本」として由郵局寄下爲盼。戰後製藥情形恐已有變遷，恐新陳代謝，已不似舊日形狀矣。此上

松枝先生

二月廿四日

周啓明

19580315Z 【周作人↓松枝茂夫】〔一〕

拜啓 日前寄一函，託購舊藥テラポール，唯此藥恐已不復製售，且寄送亦覺困難，爲此可能勿費神尋找矣。承寄下岡田君大著『奇書』併『近世庶民文化』，均已收到。另有書數種，乞費神代爲購寄爲荷。專此奉托，匆匆不盡。

松枝先生

三月十五日

周作人

19580409Z 【周作人↓松枝茂夫】〔一〕

拜啓 得手書併惠寄藥物，費心甚感。所要之書前後作五次寄上，其中唯『文學史教學大綱』，『方言詞例釋』及『李

燈詞討論集』因「品切」不能得，又『謝康樂詩註』因同係黃節所著，故併及之。『苦茶庵笑話選』今加入『笑贊』，改爲『明清笑話四種』，附呈一冊，祈惠存。井上翠之『ポケット日華辭典』近知其出版處爲江南書院，祈一訪之。中央公論社之「小供文庫」中，曾出「ギリシヤ神話」，見其廣告中有『炭燒長者』等三書，不知今尚有否耳。頗有意譯日本之「昔話」。(柳田的『日本ノ昔話』已有之)不知新出有佳者否？又岩波寫真文庫不知近有何出版，有出了目錄可得否？再有一事奉托，有原三七君⁸⁸，去冬來北京曾見訪，以後去信未見回音。不知其尙在東京否？附上名片，希便中代爲一詢爲荷。原君戰前曾爲北京大學文學院教員，係舊識也。專此奉煩，不盡。

四月九日

周作人

松枝先生

岩波寫真文庫

『八〇 季節の魚』

『一四八 忘れられた島』

『一九五 横浜』

『二〇三 渡り鳥』

『二〇七 北海道』

『二一二 夕』

『二一七 諏訪湖』

山路閑古著

『川柳歳時記』

芝浜松町 美和書院発行

比企蟬人著

『川柳小話集』

森川町七〇高文社発行

19580511M 【松枝茂夫↓周作人】

拝啓

お送り下さった御本、四月十七、八、九日に全部受取りました。有難う存じます。『明清笑話四種』さつそく拝見いたしました。中から訳しやすいのを選んで、平凡社の中国古典文学全集に訳し入れようと考えています。『紅樓夢八十回校本』⁽⁸⁹⁾は嬉しくて、三晩ほど興奮して眠れませんでした。前に送って頂いた『文学研究集刊』第五冊の中に何其芳「論紅樓夢」を読んだ時も嬉しかったのですが。

四月二十八日に写真文庫九冊、『日華辞典』、『川柳小咄集』、五月二日に『信濃の民話』一冊送りました。未来社の民話の本はこの外に四、五冊出ているようです。國文専門の人にきいて、これがよかろうと聞いてお送りした次第ですが、御覧になってよいようでしたら、別のを尚お送りいたします。

なお昔話を集成した本に、関敬吾氏の四大冊があるそうです。まだ見ておりません。

原三七君は病気で日本歯科医科大学の病院に入院していました。肺炎がこじれたとのことですが、飲みすぎでしょ

うという説もあります。昨日会いに行ったら、丁度退院しようとするところでした。さっそく御返事するとのことでございます。

原君は本屋をやっていますから本屋間の取引で新刊書は二割引で手に入るわけで、これから原君に頼んで買ってもらって、お送りしようかとも思います。原君は私より一年下の同窓です。先生にお会いして大変お元気の様であったと聞き、喜びにたえませんでした。

記念切手三枚同封いたします。井伊掃部は今日出たばかりです。切手ブームとかで、即日売切の当今、一人に一枚しか売らなくなりました。

さてお願い致します。

・劉盼遂著『論衡集解』古籍出版 一冊

・王力著『漢語詩律学』新知識 一冊

『宋詞三百首箋釈』朱古微選輯
唐圭璋箋釈 古典文学

『宋詩選注』 錢鍾書選注 人民文学

後の二冊は未刊です。

五月十日朝

松枝茂夫

周先生

今日小包二個、書籍六冊、受け取りました。

有難う存じます。

十一日正午

19580520Z【周作人↓松枝茂夫】

拜啓

手書奉讀，承寄下書二包，亦已收到，謝謝。『信濃の民話』良佳，以後擬尙要一二冊，希便中爲購求之，但不必急之耳。『漢語詩律學』及『論衡集解』已購得，日內當寄出，其餘兩種當俟出版後再說。茲又有瑣屑之事奉煩，前承（與テラポール一同寄米）寄下ドミアン（同寄米）錠藥良有效，擬再請以商品見本寄下，二本“（二十粒）”，想不過重，如見本無限制，則請見寄三本爲幸。

下記之書，祈費神購寄是荷：

岩波寫
真文庫

『2 昆蟲』

『37 蚊の觀察』

『126 貝の生態』

『159 ソ連中國の旅』

『215 世界の人形』

『235 ネズミの生活』

五月二十日

周啓明

松枝先生

追加：宮尾シゲヲ著『日本小話集』高文社出版⁽⁹⁰⁾

19580604Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓

前次寄信，奉託代購ドミアン片，唯病人信用舊日慣用之テラポール，爲此特再奉聞，祈爲改買テラポール三本，或相當數量的一瓶，仍以「貨樣」寄下爲荷。多費精神，至爲感謝。

六月四日 周作人

松枝先生

19580628Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓 文庫本數種，祈費神惠購是幸。

六月廿八日 周啓明

松枝先生

新潮文庫

田村泰次郎

『肉体の門』

小川未明

『童話集』

角川文庫

小川未明

『赤い蠟燭ト人魚』

鈴木三重吉

『綴方読本』

岩波写真文庫

『八〇 季節の魚』

『一四八 忘れられた島』

『一九二 五島列島』

『二〇八 小豆島』

『二一二 北海道』

『二一七 諏訪湖』

19580814Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓。今有瑣事奉煩，書目一紙寄奉，祈費神代購爲荷。

松枝先生 八月十四日 周作人

宇野浩二『苦の世界』 岩波文庫

永井荷風 『日和下駄』 〃

『腕くらべ』 〃

『おかめ笹』 〃

『つゆのあとさき』 〃

『溼東綺譚』 〃

ハドソン 『ラ・プラタの博物学者』 〃

『はるかな国とほい昔』 〃

壺井栄 『曆』 新潮文庫

『小泉八雲集』 全二冊 〃

19580914Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓 承寄下『小川未明童話集』等六冊，至爲感荷。八月十四日去信中所記永井荷風諸作，可請勿再寄，因已有了。但請費心代找其中第12冊，『柳田國男集』一冊。又五月二十日去信奉託，有岩波寫真文庫數冊，未見寄下，不知是否係來去信件中有遺失，今別紙另行開呈，乞一併代購爲荷。『宋詩選注』等，往詢新華書店，仍未出版，容後再購呈。

松枝先生

九月十四日

周啓明

岩波寫真文庫

『昆虫』

『蚊の観察』

『貝の生態』

『ネズミの生活』

『世界の人形』

『ソ連中国の旅』

19581119Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓

承寄『柳田國男集』等費神謝々。此次風見章君等來華，聞先生擬同來未果，甚為可惜，但後當尚有機會耳。茲有一事奉託，因弟婦患喘，需要レスタミン，如能購500粒者一瓶，由見本寄下（請寄給周芳子，居址相同），不勝幸甚。全名如下：レスタミンコーワ錠（Restamin Kowa），名古屋市興和新藥株式會社。又有雜書數種亦乞購寄。『魯迅全集』七已出版，即容寄上。匆匆。

松枝先生

十一月十九日

周啓明

宇野浩二『苦ノ世界』岩波文庫

『石川啄木詩集』岩波板

豊田正子『綴方教室』角川文庫

一九五九年

19590121Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓

前奉託購藥，承即蒙賜寄，已照收到，費神至感。又承岩波書店寄下尊譯『寶葫蘆』⁽⁹²⁾等二冊，亦已收到矣。唯前託購『石川啄木詩集』等未見寄到，此詩集近擬翻譯，急於需用，可否乞再一注文，又有別的書籍亦乞一併辦理，是荷。又前寄『宋詩選註』及『宋詞三百首』及『魯迅集』，想已察收。匆匆不多及。

松枝先生

一月廿一日

周作人

- 一、『石川啄木詩集』岩波本 二冊
- 一、『竹取物語』中河與一 角川文庫本
- 一、『枕草子』松浦貞俊 〃
- 一、『好色一代女』吉川勇 〃

再，岩波寫真文庫，日本古典文學大系，以上兩種目錄，如能取得，乞各賜一份。

19590131Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓 廿一日寄一信，託購『枕草子』等，唯角川文庫本恐未出版，請賜另一找尋，以有詳細譯註者爲佳，因受委託翻譯，現在需用也，拜託拜託。又『啄木詩集』岩波本如不可得，則請改買角川文庫中本亦可。承寄下『綴方教室』等二冊，已收到了。『人民畫報』自本年份起，改爲每月出版兩次，其一月份已寄出矣。草草。

松枝先生

一月卅一日

周啓明

19590222Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓

承寄下『啄木詩集』等，謝謝。茲有請者，現受囑譯西鶴物，擬先試譯『二代女』，需用 text，岩波之日本古典大系中『西鶴集上』或朝日新聞社古典全書之中，有無適當之本，望費心擇取一種爲幸。此種 text 以註釋詳明者爲佳，祈斟酌定之。又日本古典大系中，知『浮世風呂』已出，但未知『浮世床』亦有之否？如有之亦甚願得一見者。草草。

松枝先生

二月廿二日

周啓明

19590302Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓

又有瑣事奉託，頃聞歐陽文彬在報上發表之「劉連仁苦盡甘來」，已譯成日文，名爲『穴中十四年』⁽⁸³⁾，唯不知係何處出版，如可找到，希代購一冊寄下爲感。前函託之『浮世床』，不知岩波之古典文學大系中有否，朝日古典全書本，

則前已承購寄矣，如有別種本子，甚希望能夠得到。匆匆。

松枝先生

三月二日

周啓明

19590304Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓

前日方寄一信，旋得惠寄『日和下駄』等二冊，至爲感謝。今見寫真文庫目錄，有數冊欲得，乞一併寄下。前信所說『穴中十四年』，未詳出板之處，但據報道，東京有內山完造等數十人，曾爲開出版記念會，想可查得其出版處耳。匆匆。

松枝先生

三月四日

周啓明

岩波寫真文庫

237 『日本』（1957四月七日）

272 『日本』（1958年一月）

243 『水郷潮来』

240 『倉敷』

101 『戦争と日本人』

19590313Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓

連日屢以瑣事奉煩，不勝惶恐。近人民文學出版社命翻譯啄木詩歌，因此又有數書請求蒐購，因多係數年前出版，或恐未能入手，但乞儘可能得到者可耳。又譯啄木詩至『呼子と口笛』補遺（詩集三，一七九頁）未行，「明るき午後のものとなき靜心なき」一句，不能了解，乞賜教爲幸。啄木參考書另紙開奉，祈賜察覽爲荷。先生有何需要，乞示及，以便購奉。匆匆不盡。

松枝先生 三月十三日 周啓明

『啄木の歌と鑑賞』矢村、渡邊共著 新興出版社

『石川啄木』渡邊順三 新興出版社

『青春の悲歌』遠地等共著 ナウカ社⁽⁹⁴⁾

『啄木』中野重治 弘文堂

19590407M 【松枝茂夫↓周作人⁽⁹⁵⁾】

拝啓 すっかり御無沙汰して申訳ございません。

さきに『浮世風呂』のお訳本をいただきました時も、お禮状さえ差上げず、慚愧の至りでございます。お送り下さった書籍、『魯迅全集』はじめみな確かに受け取っております。『人民画報』も毎月確実に着いております。

啄木の詩は二三の専門家に質しました結果、大体次のような意味ではないかということです。

「ものとなき」というのは白秋あたりの用語の模倣らしく、「何物とも指定されない」「はつきりした理由のない」「そこはかとない」のような意味で、一句は

明るい午後の日ざしの中に感ぜられる何とも

とりとめのない落ちつかなさ

とでもいったところか、とのことでございます。

それから岩波の古典文学大系の『浮世風呂』には、「浮世床」ははいっておりません。「浮世床」の注釈本は朝日古典全書本が唯一ではないかと思えます。

もつとも久保田万太郎訳と称する「浮世床」の現代訳が河出書房の日本国民文学全集の中にはいつていますが、もしお入用でしたら、搜してお送ります。西鶴の注釈書は戦後色々出て、現代訳も何種ありますが、岩波の古典文学大系が最も新しいだけに一番詳しいようですから、近日中にお送りいたします。

『枕草子』も古典文学大系本がどうしても必要ではないでしょうか。さきに河出書房の現代訳と岩波文庫本三冊（絶版）が手元にありましたのを取敢えずお送りしましたが。

私は目下平凡社の中国古典文学全集の仕事を少しやっております。その中の一卷『歴代隨筆集』というものの中に、先生の『明清笑話選』の中から少し訳しました。このところは『陶菴夢憶』にかかっています。これは全くどうにも訳されるものではなし、結局、あまりむつかしいものは省くことに致しましたが、それでもわからぬところだ

らけで、いやになりました。二三カ月あとに、ぶざまな格好のものをごらんに入れなければならぬでしょう。

すみませぬが、左記のものをお送りいたゞきたく、お願いします。

・中国科学院『文学研究所專刊』(1)(2)(3)(4) 人民文学⁽⁹⁶⁾

・『文学研究與批判』(1)(2)(3)(4)

・『沒有批評就不能前進』(何其芳)⁽⁹⁷⁾

・『閨紅樓夢隨筆』清、周春

中華

19590410Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓

因受出版社囑託、擬著手西鶴物、有力不勝任之感。需用『好色一代男』現代語譯(角川文庫)及該書原典(日本古典文學大系本『西鶴集』上)、均乞費心代購。又日本國民文學全集中、有『浮世床』在江戶名作集第一冊内、如已出版、亦希望得見。匆匆不盡。

四月十日

周作人

松枝先生

19590430Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓

惠翰敬悉。『西鶴集』上如未寄出，可請不必寄予，因北京圖書館有之，可以借用，但國民文學全集中『江戸名作集』有「浮世床」之一冊，仍乞代購爲荷。又日本郵票目錄，便中乞賜寄一冊。日本著作近日譯出『啄木小說集』，內有「二筋の血」係是往年拙譯，現又承命譯『詩歌集』，殊苦不能信達，有椽の下の力持之感。匆匆。

松枝先生

四月卅日

周啓明

19590524Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓

承寄下『西鶴集』，費心謝了。唯因出版社過於小心，恐怕西鶴的『浮世草子』不能出板了，以是翻譯且從緩。但擬增廣『狂言』，蘇聯譯本有三十餘篇，囑照添譯，爲此請費神代購古川久之『狂言集』朝日社日本古典全書三冊寄下，如找不到則岩波文庫之笹野堅之『能狂言』三冊亦可。前所示之書，曾函詢新華書店之古典門市部，得回信只有一種，已另寄上矣。匆匆。

松枝先生 五月廿四日 周啓明

19590530Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓

廿四日寄一信想已蒙察覽。囑購『狂言集』，現已由出版社借到，因此可以不必要了。但請爲代購下列諸書：

- 一、『倉敷うちそと』朝日寫真ブック7
- 一、『近畿の民家』朝日寫真ブック45

一、『中國の奥地』朝日寫真ブック57
一、『新しい臺灣』朝日寫真ブック84

松枝先生

五月三十日

周啓明

19590722Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓 『承寄下『倉敷』、『近畿の民家』、『中國の奥地』三冊。又『江戸名作集』一冊，費心甚為感謝。現正翻譯『浮世床』，得此大有幫助，唯可惜只有初編，未免美中不足耳。此後擬改譯『狂言』，出版社因俄文譯本有卅餘篇，其中大多數為中譯所無，囑為增加，但北京只找到『狂言記』，似不甚可據，擬請代購朝日古典全書中之『古川久編狂言集』三冊，又朝日寫真ブック中之『(11) 相撲今ト昔』、『(36) 埋レタ古代中國』，至感之。草草。

松枝先生

七月二十二日

周啓明

19590804Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓

承寄下『江戸名作集』，頗為得用，唯只有初篇，且亦有省略處，外國人欲完全瞭解，自更困難耳。茲有託者，有姪兒好獵，聞知日本有此項雜誌，欲得一見，可否請賜代為訂閱一年或半年，於任何時起始均可，直接寄予周豊二（住址同）或仍由鄙人收亦無不可。草草。

松枝先生

八月四日

周啓明

『全獵雜誌』

東京都新宿區横寺街五五番地

全日本狩獵俱樂部

19590811Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓。

前奉函想已達覽。出版社急於翻譯『狂言』，令速從事，已決定以『狂言記』爲本，故前此奉託之朝日本『狂言集』已可無須矣，如未購到希即作罷論可也。專此奉告，即請

松枝先生台鑒 周啓明

八月十一日

19590829Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓。

十一日寄奉一函，諒已蒙察入。茲有託者，第一製藥株式會社所出之テラーポル，雖少陳舊，唯內人服用尙屬有效，爲此請費神爲購二十片者二三瓶，由郵便爲見本“寄下，實爲感幸。又角川寫真文庫中有『俳句歲時記』大約亦分五冊，希代購一部寄下爲荷。至非寫真文庫之『俳句歲時記』，則已有之矣。匆匆。

松枝先生

八月廿九日

周啓明

19591002Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓

承賜『歷代隨筆集』⁽⁹⁰⁾一冊，謝謝。集中收入『模糊集』甚有見地，其他選擇亦均妥適，至為佩服。前此託購小書，有『相撲今と昔』等未見寄到，似係「賣切」，祈再為一查為荷。鄙人前為人民文學出版社增訂『日本狂言選』，根據蘇聯譯本，有三十九篇，其中五篇已經譯出，因為補譯三十四篇，但所據係『狂言記』^{蘇聯本}，因據別本改譯，頃已完成矣。以後將譯西鶴，此在鄙人實為難事，需用語譯如角川文庫中『一代男』，最好祈代購一冊，或能為代找『國民文學全集』中『西鶴名作集』，尤為感荷。瑣瑣奉讀，至感。草草不盡。

松枝先生

十月二日

周啓明

19591009Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓

承寄下書兩包，謝謝。『俳句歲時記』甚有趣味。『狂言』甚費心，唯拙譯已據『狂言記』譯出交去，不及根據善本，頗有可惜。前信託購朝日之國民文學中『西鶴』，近已從圖書館中借得，故可無須矣。荷風翁去世，不知近時有紀念刊物出版否，如能有圖刊更佳，乞為留心。角川寫真文庫中之『岸田劉生』及『雪舟』，亦祈代購為荷。草草。

松枝先生

十月九日

周啓明

19591105Z 【周作人↓松枝茂夫】

啓者：日本郵便切手新出目錄，希寄下一冊，又有『郵趣』雜誌如能入手，亦乞將近出的三二冊寄下爲荷。

松枝先生
十一月五日 周啓明

19591115Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓

友人鄭子瑜君原係福建文人，現在新加坡任職學校教授。意欲與先生通信請益，重違其意特爲介紹，請賜考慮，如屬可能乞屆時予以賜覆，不勝幸甚。草草不盡。

十一月十五日 周作人

松枝茂夫先生

一九六〇年

19600210Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓

承寄下『川柳見世物考』二冊，費心至感。今日至新街口新華書店，偶見『老舍劇作選』，因特寄上一冊。此人近甚有名，但亦不耐讀，姑且備覽耳。別紙有三小書，希便中爲一購寄。匆匆不備。

二月十日

周啓明

松枝先生

一、岡田甫『川柳愛慾史補遺篇』

一、青山繁『川柳明治文壇散步』並

一、山路閑古『きのう、きょう』並

一、角川寫真文庫

一、『本願寺』

一、『天理教』

一、『佐渡ヶ島』

19600723Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓

好久未通信了。所寄『人民畫報』，不知均收到否？近來時常遲刊，七月份尙未出全也。請從適當日期起，費心爲每月寄下『婦人畫報』，再岩波寫真文庫最新目錄亦乞寄下一冊爲荷。

松枝先生

周啓明

七月廿三日

19601107Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓

前寄信諒已達覽，『人民畫報』近又續出，當繼續寄奉，十月份的已寄出了。茲有下列書籍，請費神代購：

一、母袋未知庵著『川柳四目屋考』 出版所不明

一、笹川臨風校註『東海道中膝栗毛』 朝日新聞社刊行

再，岩波寫真文庫如有新出目錄，亦祈代索一份寄下爲荷。

十一月七日 周作人

松枝先生

19601119Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓 二月中寄一信併『老舍劇作選』一冊，七月中又奉一書，未得回信，甚以爲念。目下此間因紙張缺乏，許多報刊停止出版，即『人民畫報』亦常愒期，最近如十月份尚未出齊，誠恐或將無形停刊也。想於尊處或無甚用處，因此擬俟本年出齊，不再預定，特此奉聞。鄙人現在翻譯『草枕子』，年內可畢事，明年擬再譯希臘雜文矣。勿勿。

松枝先生

周作人

十一月十九日

19601214Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓 有別記之書籍數種，請費神一爲代購，不勝幸甚。此致
松枝先生左右

十二月十四日 周啓明

- 一、夏目鏡子『夏目漱石の思ひ出』上下
- 一、豊田正子『粘土のお面』（以上角川文庫）
- 一、『夏目漱石』
- 一、『森鷗外』（以上日本文學^筑アルバム^房）
- 一、内田百閒『百鬼園隨筆選』上下（新潮文庫⁽¹⁰⁾）

一九六一年

19610209Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓

承寄下書籍四部六冊，至為感謝。關於『石佛巡禮』尤感興趣，茲乞再代購數種寄下，書目別紙開呈，費神至感。鄙人譯『草枕子』，大概算已完了，唯任重力薄，深恐不能勝耳。此後擬再譯希臘散文作品，如能翻譯『膝栗毛』，尤所願意，正在交涉中，頗希望其能實現也。匆匆不盡。

松枝先生

二月九日

周作人

大野新助

『寫真文學散步』

閔敬吾

『瘤取り爺さん其他』

同

『續』

〃

『桃太郎』

同

『寫真 岬』

〃

『一寸法師』

野間宏

『〃 中国の顔』

以上岩波文庫

三井高陽

『日本の切手』

重森完途

『庭の美しさ』

以上現代教養文庫

19610303Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓

承寄下書籍，費神甚為感謝。唯第二次所寄，除『膝栗毛』及『漱石鷗外文學アルバム』外，『婦人畫報』二冊則據稅関通知，因其登載美國式樣的文化，宣傳安適的生活，不予發還（普通一般『婦人畫報』等報刊，不能輸入），故特以奉聞，請以後不必寄下為要。又別紙所記書籍，乞費神購寄，國內因缺乏紙張，出版很受影響，新書固少出版，

即刊行亦甚有限制，普通幾乎買不到。匆匆不盡。

松枝先生

三月三日

周作人

再啓 近讀古川久君著『狂言の世界』⁽⁴⁰⁾，見說及拙譯及ロシヤ譯，此書曾於前年由人民文學出版社以見示，囑依照所收三十九篇譯出，查所依據即係日本文學大系中之『狂言記』，因就所見參攷（有幾篇就改用別的本子）別本，全數譯出，而以拙譯附於後方。譯稿早已告成，唯近因缺少紙張，或一時未能出版，亦未可知。再次增訂譯本，本所贊成，唯此係純是被動，故於俄譯篇目之外，未曾有所增加。乞於便中轉告古川久君一聲爲幸。

三月三日

作人再拜

『桂離宮卜修學院』岩波寫真文庫

『千代田城』〃

『京都御所卜二條城』〃

『藥師寺、唐招提寺』〃

『佛像』〃

『山水畫』〃

『若山牧水』日本文學アルバム

『樋口一葉』〃

19610328Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓

前信報告『婦人畫報』不能進口，請不必再寄，諒已察覽。日前遇見紹興魯迅紀念館主任張能耿君，云欲得尊譯之『魯迅の故家』未能得到，茲特爲代陳，祈賜予一冊，直接寄至紹興東昌坊口，魯迅紀念館爲荷。再岩波少年文庫中有『西遊記』（三冊），亦乞代購一部寄下爲幸。匆匆不悉。

松枝先生

三月廿八日

周作人

19611012Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓 『承寄下『仏の微笑・人間の微笑』等，費心至爲感荷。今別紙有數冊書物，請求代爲購寄是幸。鄙人所譯『浮世床』早已完成，因紙張缺乏，未能出版，『枕之草紙』亦已潦草竣事矣。明年擬另從事希臘散文，大概譯『ルキアノス文選』，亦不知老年能勝任否耳。匆匆不盡。

十月十二日

周作人

松枝先生座右

一九六二年

19620422Z 【周作人↓松枝茂夫】⁽¹⁰⁴⁾

拜啓

近日見『北京晚報』⁽¹⁰⁵⁾上有關於曹雪芹的故居一文，似頗有新見解，特將“切拔”附呈，請賜察覽。聞串田孫一著有『希臘神話』，係筑摩書房出版，不知有何新意見，祈便中代為購取一冊寄下為感。匆匆不盡。

四月廿二日 周作人

松枝茂夫先生

小門勝二『銀座の荷風散人』東都書房

〃 『淺草』〃〃〃

大竹新助『伊豆箱根の旅』現代教養文庫

堀江知彥『書の美しさ』〃

一九六四年

19640925Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓 今日拜見『魯迅選集』第十三冊日記書翰部分，見小註略有漏略或錯悞，特奉告如下：

97頁，世與禽男，乃蔡元培與林琴南二人之“仇名”，黃侃罵舊同學附和蔡元培爲“曲學阿世”，便稱蔡爲“世”，禽男則因與琴南同音，故魯迅稱之如是。

98頁，詩荃乃許壽裳之姪，乃壽裳之兄銘伯之子也。

專此奉告，不盡。9\25 周作人

松枝先生

(欄外) 日記中6頁羽太的假名應爲ハプト。⁽¹⁰⁶⁾

19641028Z 【周作人↓松枝茂夫】

拜啓 承賜東方文庫二冊至爲感荷。讀時偶有所見，寫出呈教，以備參考。此上

松枝先生几右

周作人

十月廿八日

『中國笑話選』

第156ページ ほら貝“所云海蝸，乃是日本的”河蝸“，比ほら貝要小十倍，長只有四纏，東南鄉下人多喜食之，然其中多寄生血吸蟲，平常買時大抵用茶碗”量“，多少文一杯，故事中所說乃是江浙風俗。

第268ページ ふたなり，此篇係嘲”陰陽生“者。陰陽生乃是”陰陽師“，乃安倍晴明之流，司占卜祓除之事，近來只是”道士“兼辦而已。ふたなり稱爲”陰陽人“，語取雙關之意。

19641215Z【周作人↓松枝茂夫】

拜啓

十月十二日目加田君的信⁽¹⁰⁸⁾，於本月十一日始由科學院社會科學部轉到，次日收到『笑府』寫真及尊札，甚爲感謝。『笑府』今始得見全豹，可謂幸甚，始知前此所選缺點甚多。但目下亦無有重選之希望耳。酒井君處祈爲致意，別書寄上拙書併乞轉交，本不能書老病之餘更不成樣子了。又一紙係寫近作打油詩⁽¹⁰⁹⁾，謹以呈教。照例是”不真面目“，故第六句云然，第三四句則因對於日本民俗甚感興趣，多讀關於山父及狸的故事，第五句的對話則指近年翻譯之^{ルキアノス}路吉阿諾斯著作耳。『人民畫報』因預定須定一年，故已於本月底截止，不再預定了。想在東京亦有代售，希就近購取，併予鑒原爲幸。鄭子瑜君囑爲介紹⁽¹⁰⁹⁾，彷彿記得以前已介紹過一次，今重爲寫去，亦祈接洽。匆匆不盡。

十二月十五日

周作人

松枝先生

《同封の紹介状》

拜啓。

友人鄭子瑜君在新加坡師範學院任教，現在早大語學研究所，擬前往晉謁，有所請益，特爲介紹，希加以照顧併予賜教，不勝幸甚。

松枝先生

周作人

十二月八日

《八十自笑詩》

可笑老翁垂八十，行爲端的似童痴。

劇憐獨脚思山父，幻作青氈羨野狸，

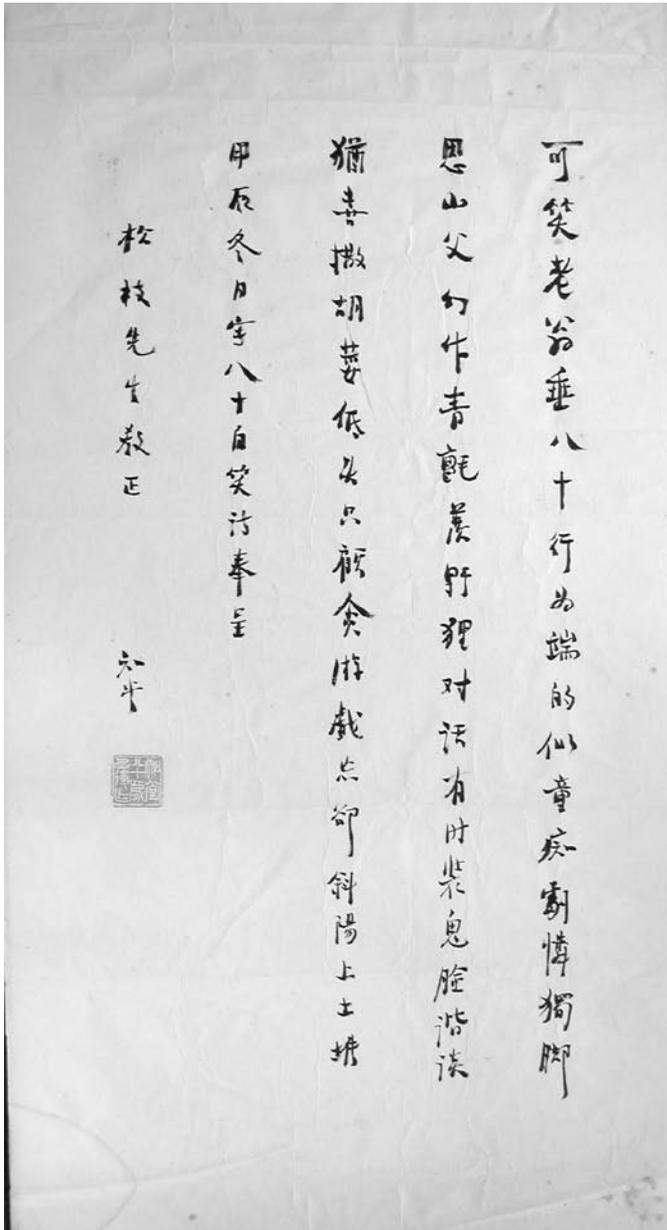
對話有時裝鬼臉，諧談猶喜撒胡荽，

低頭只顧貪遊戲，忘卻斜陽上土堆。

甲辰冬日寫八十自笑詩奉呈

松枝先生教正

知堂



一九六五年

19650104 M 【松枝茂夫↓周作人】

拝啓

暮れの二十三日にお手紙頂戴いたしました。

それから短い旅に出て、大晦日の夜帰宅しましたら、お送下さいました詩が机の上のつておりました。まことに望外の喜びでございます。さつそくおそなえ餅といっしょに新春の床の間に飾って、ほくほく悦びに入っている次第でございます。本当にありがとうございます。あつくお禮申し上げます。酒井君にも知らせたら、飛んで参りまして、これまた大変な喜びようございました。

今年はお出来すならば、先生の随筆を何冊か新しく訳し直したいと考えています。もう少し準備をととのえてから、お許しを乞いたいと存じます。今までの紹介の仕方は、軍閥の眼をはばかって、非常にかたよった面がありました。それは最近竹内好君が指摘した通りです。〔『世界』一月号「周作人より核実験まで」改訳の事は、前々からかねて考えていたことでありますが、そろそろ期が熟して来たように思います。現在は本屋に頼まれて『蜀碧』⁽¹¹⁾を訳しています。あまり気乗りがしませんので、仕事がかどりませんが、大体の訳は終わりました。これと二、三の小々な仕事をすました上で、いよいよ新しい構想を練るつもりでおります。よろしくお願い致したうございます。

私もいつのまにか、六十という年を迎えました。全くうそのようなことです。四、五年前に学生に誘われて竹内君

と一緒にスキー見物に行ったのが病みつきで、毎年冬になるとスキーに一週間なり三、四日なり出掛ける習わしとなりました。竹内君は大変な熱心さです。毎年三、四回は出掛け、乗鞍岳で一度は足を折った程なのに一向に懲りる様子もありません。私はそれほど熱心ではないのですが、下手くそながら、雪の上を無念無想で直滑降する気分は何ともいえません。お蔭様でそんな真似ができる位たっしやでおります。

目加田さんから、北京の様子を色々伺いました。彼は先生にお会い出来なかったことを本当に残念がっております。しかし『笑府』がともかくお手許に着いたと知って安心致しました。

当地はここ数年暖冬がつづいて正月もほとんど寒さを感じない位でございます。しかし御地は目下嚴冬の候ではないでしょうか。どうかお身体を大事になさいます様、遥かに祈っております。

一月四日

松枝茂夫

周作人先生

- 注(1) 王士著「關於周作人」および「關於周作人(之二)」(『回望周作人・知堂先生』河南大学出版社二〇〇四年刊) 当時の馮雪峰(当時、人民文学出版社社長)の命により、周作人の担当を務めた。六二頁には上海出版会社の性格について説明がある。周作人自らは「二八六 我的工作三」(『知堂回想録』)で、一九五〇年に葉聖陶(出版総署署長)から依頼を受けて『伊索寓言』の翻訳依頼を受けたのが「お国のために翻訳を始めた」始まりだと述べているが、実際には出版は実現せず、一九五五年に人民文学出版社から刊行されている。その背景には当時の周作人への評価が確定していなかった事情が関係していると見られる。

- (2) 梁實秋「憶豈明老人」(『回望周作人・知堂先生』)
 (3) 作家柳雨生として活動を論じた論考としては杉野元子「柳雨生と日本——太平洋戦争時期上海における「親日」派文人の足跡——」(『中国学会報第五十五集、二〇〇三年』)があり、対日協力の問題について詳論されている。

- (4) 周作人の書簡(19620422Z)には、松枝茂夫自身の手で「羽太信子 死 昭和37年4月8日(朝日、昭和37.6月7日鮑耀明)」とメモがある。これは鮑耀明「周作人・羽太信子・胡適」(朝日新聞一九六二年六月七日十二面)の記事に接して書かれたメモと思われる。当時鮑耀明の許には周作人から信子夫人の訃報を伝える手紙が届いていた。詳細は『周作人晩年書信』(真文化出版公司一九九七年十月)参照。

- 信子夫人は以前から糖尿病を患い、寝たきりの状態が続いていた。六二年四月六日に北京大学病院に入院、八日午後一時に逝去した。
- (5) 邦訳題は以下の通り。『インソップ物語』『福の神・ギリシヤ戯曲』『エウリーピデース悲劇集』『ギリシヤ神話』『ルキアノス対話集』『狂言選』『浮世風呂』『石川啄木詩歌集』『古事記』『枕草子』『浮世床』『平家物語』
- (6) 『近世庶民文化』二〇号「明和版『如意君傳』其他」(向臺樓人)、三二・三三合併号、「接物の漢字」(周啓明)、三三三号「柳の葉末全釋」を讀む」(向臺樓人)、三四号「仄その他」(向臺樓人) などがあり、別稿を準備中。
- (7) 松枝茂夫書簡19650104Mを参照。
- (8) 周作人書簡19561024Zを参照。
- (9) 松枝茂夫「知堂老人『八十自笑』の詩」(『中国文学の楽しみ』岩波書店一九九八年、タイトルは初出誌『節令』五期による)に解説がある。ここではその訓読を引かせていただいた。
- (10) 『周作人年譜』(天津人民出版社二〇〇〇年刊)一九六五年三月十五日の項で引用される書簡「1966年2月10日致徐訐書」(香港『筆端』一期掲載)による。文中で言う昨年とは旧暦によるため、二月一日までに相当する。
- (11) 凄惨な最期は文潔若「苦雨齋主人的晩年」(『回望周作人・知堂先生』)に詳しい。
- (12) 封筒の消印からは辛うじて「SOC1954」と判読できる。当時国交断絶状態であった日中間では手紙が送れなかつたようで、北京から香港へ書き送った手紙を香港から日本へと郵送するという方法がとられたようだ。このため後述の通り、この書信には柳存仁からの短い手紙が添えられていた。さねとうけいしゅう(実藤惠秀)は、その手紙を松枝茂夫に託し、周作人との交流が再開した。
- (13) さねとうけいしゅうは当時早稲田大学教授。『日中友好百花』(同書刊行会発行、東方書店発売一九八五年)所収の著者略歴によると、さねとうけいしゅうは、明治二十九年(一八九六年)広島生まれ。十四歳より本派本願寺派の長善寺で修行に励み、得度して惠秀の名を得る。しかし、学問への思いやみがたく、大正九年、二十二歳の年に無断で寺を飛び出し、早稲田大学附属高等学院に入学。大正十五年、同文学部(支那文学専攻)を卒業。卒業前の春休みに初めて中国を旅行し、奉天、北京、天津、濟南、青州、青島を回る。高輪中学教諭を経て、昭和三年(一九二八年)早稲田大学第二高等学院講師となり、その傍ら東京外語専修科(支那語)で中国語を学び、昭和五年に卒業。昭和十年(一九三五年)高等学院教授となる。一九三八年より、外務省文化事業部特別研究員として中国北京で研究生活を送る。周作人との知遇を得たのはこの頃と推測される。戦後、学制改革に伴い、一九四九年より早稲田大学教授(法学部、のち教育学部)。周作人が實藤に書籍購入を依頼した経緯は明らかでないが、戦中戦後に九州と東京を転々とした松枝茂夫とは連絡がつかず、勤務先の早稲田大学宛に依頼の手紙を送ったものと想像される。この間の事情に触れる文章として、柳存仁「知堂紀念」(『回望周作人・知堂先生』)がある。
- (14) 写真文庫の正確な書名は下記の通り。『東京・大都會の顔』(岩波写真文庫47)、『東京案内』(岩波写真文庫68)、『富士山』(岩波写真文庫15)、『赤ちゃん・誕生日まで』(岩波写真文庫63)、『郵便切手』(岩波写真文庫83)
- (15) 具体的に何の原稿のことを指すのか不明。行末の「實」も判読が困難で待考。
- (16) 封筒の消印は香港のもので、「HADE36」とあり、一九五四年十二月二六日に柳存仁が香港から転送したものと思われる。柳存仁が添付の手紙で書信の公開を禁ずる旨、念を押しているように、外国との通信にはかなり慎重だった。

- (17) 『阿里斯托芬喜劇集』(羅念生譯、人民文学出版社一九五四年十一月刊行)
- (18) 柳存仁から香港経由で転送する旨、注意があったにもかかわらず、封筒の宛名を見る限りでは直接北京宛に返事を送っている。
- (19) 周遐寿『魯迅的故家』(上海出版公司三月初版)を指す。
- (20) 『静かなる山々』(後編)は当時『アカハタ』(日曜版)に一九五四年三月一日から同年十二月十三日にわたって掲載された。単行本の『静かなる山々』は蒼樹社より一九五二年六月に刊行されているが、文中で述べる前編のみ収録する。角川文庫版『静かなる山々』第一、二も前編のみ収録した。翌年五年に刊行された角川小説新書版の『静かなる山々』第一、二部でようやく後編を含む完結版が刊行された。
- (21) 『現代中国文学全集第十三巻・曹禺篇』(河出書房一九五四年十二月刊)
- (22) それぞれ『曹禺劇本選』(文化生活出版社一九四九年刊)、戯曲『橋』(雜誌『文藝復興』第一巻三、四、五期、一九四六年・単行本なし)、映画台本『艷陽天』(上海文化生活出版社一九四八年刊)を指す。
- (23) 趙清閣の作品を指す。紅樓夢劇本之一、二、三と銘打たれ、『詩魂冷月』、『雪劍鴛鴦』、『流水飛花』が上海名山書局より一九四六年に刊行されている。
- (24) 正しくは『カター・サリット・サーガラ・インド古典説話集 1』(岩本裕訳、一九五四年)
- (25) 『飛驒・高山』(岩波写真文庫)以外は19541018Zでの依頼と重複する。
- (26) 『Ars graph』(アルス・グラフ)第9集(アルス刊行)
- (27) この手紙は柳存仁経由で送られたため、柳存仁の添え書きがある。この後、手紙は香港経由航空便と書き添えることによって、柳存仁の仲介なしに、東京北京間でやりとりできるようになったようだが、書籍などの小荷物は北京直送と香港経由と二通りある。後にも「由東京直寄之書、均能收到、較轉寄更爲便利矣。(19560407Z)」とあるように、北京直送が簡便と知りつつも、色々な顧慮があつて避けたのだと思われる。
- (28) 『全釈柳の葉末』(美和書院一九五三年刊)は購読者限定販売だったために入手できず、松枝茂夫は有光書房一九五六年刊の改訂新版を送つてくる。
- (29) 『周作人年譜』(前掲書)でも同日に松枝宛に謝礼の手紙を書いた旨記述がある。
- (30) 『現代中国文学全集第十三巻・曹禺篇』を指す。奥野信太郎訳「日出」と松枝茂夫訳「蛻変」を収める。
- (31) 『川柳未摘花註解』(第一出版一九五二年刊)、『川柳愛慾史』(あまとりあ社一九五二年刊)
- (32) 『阿里斯托芬喜劇集』のこと。
- (33) 『日本狂言選』(人民文学出版社一九五五年四月)
- (34) 『未摘花通解 二篇・上巻』(大曲駒村遺著顕彰会一九五二年刊)のこと。
- (35) 『周作人年譜』一九五五年四月七日に柳存仁宛に発送した記録がある。
- (36) 愛羅先珂著(東方文庫、商務印書館一九二四年)を指す。胡愈之譯『枯葉雜記』(上海生活的寓言小品)、夏丐尊譯『恩寵の濫費』、『幸福的船』三篇を収める。

- (37) 『東海道中膝栗毛』頭註（十返舎一九原著、出口米吉頭註、藤谷崇文館一九三三年刊）のこと。
- (38) 『中國文學簡史』（上海文藝聯合出版社一九五四年刊）
- (39) 『周作人年譜』一九五五年六月九日に柳存仁經由受領の記録がある。
- (40) 『丁西林劇作選』（人民文学出版社一九五五年刊）
- (41) 『中國文學史略稿』第三卷（五十年代出版社一九五五年刊）
- (42) 正しくは安藤鶴夫「落語鑑賞」。
- (43) 当時、周作人の長女・静子は夫とともに西安で暮らしていた。
- (44) 下に書かれたゴチック（実際は赤字）で書き足された文字は松枝茂夫によるものか。
- (45) 安川久留美『現代川柳の鑑賞』（すげ笠川柳社一九五三年刊）
- (46) 同じ「近世庶民文化」の増刊号「臙脂筆」一〜五号（一九五三年九月〜五四年五月）を指す。
- (47) いわゆる八〇回本の「脂硯齋重評石頭記」（文學古籍刊行社一九五五年）を指す。
- (48) 『紅樓夢問題討論集』（作家出版社一九五五年刊）を指す。
- (49) 周作人の長子、周豊一（一九一二年〜一九九七年）の著訳としては以下のものがある。いずれも周豊一が生前勤務していた北京国家図書館の目録により確認した。この時点で惠贈を受けた可能性のあるものは、以下の三点であろう。いずれも日本書からの翻訳と見られるが、いずれも未見のため、原題は不明。
- 『反抗著暴風雨』（編訳、上海文化生活出版社一九五三年）
- 『明天』（編訳、上海文化生活出版社一九五三年）
- 『血的九月』（編訳、上海文化生活出版社一九五四年）
- このほかにも下記の訳書があるが、『廣島的一家』は未見のため確定できないが、原爆の惨状を取り上げた『屍の街』と見られる。ほか二冊の原題は『妻よねむれ』『友情』。
- 『廣島的一家』（大田洋子原著、上海新文藝出版社一九五七年）
- 『妻呵、安息吧』（徳永直原著、上海文藝出版社一九六一年）
- 『友情』（武者小路實篤ほか原著、人民文学出版社一九八七年、佳作叢書）
- 書簡に欠落があるためか、該当の写真は不明だが、おそらく高杉一郎『夜あけ前の歌——盲目詩人エロシエンコの生涯』（岩波書店一九八二年刊）三四二頁などに見える写真であろう。この写真は、『魯迅日記』と『周作人日記』の一九二三年四月十五日付にある会合の時のものと思われるが、同席したはずの竹田復（当時、文部省在外留學生）は撮影役となったためか、入っていない。同じく『魯迅日記』一九二三年一月五日付にある会合の写真（学研版『魯迅全集』十九巻口絵）には、竹田が入っている（周作人やエロシエンコは不参加）。この二枚の写真は、両方に入っている藤塚郷（当時、八高教授）の手に保存されていた。藤塚の女婿である駒田信二は、その両方を見ていたのかも知れない。（この項は飯倉照平先生からのご教示による）

- (51) それぞれ『歌舞伎』(アルス・クラフ第二集)、『歌舞伎名作の鑑賞・世話もの篇』(アルス・クラフ第五集)
- (52) 正しくは「波覃易送」(フリードリッヒ・ボーデンシュテット, Friedrich von Bodenstedt, 1819-1892) のことだが、当時通行のテキストは『魯迅全集』(二十巻本、魯迅先生紀念委員会編、一九三八年刊) に基づいていたため、「摩羅詩力説」では「波覃易送」の誤植がそのまま受け継がれていた模様である。
- (53) 徳永直『妻よねむれ』(角川文庫版一九五三年刊) 周豊一が後に訳書を刊行している。注記(9)を参照。
- (54) 徳永直『静かなる山々』(一)(二)(角川文庫版一九五四年刊)
- (55) 正しくは角川文庫刊
- (56) それぞれヘーローンダース『擬曲』、テオプラストス『人さまさま』
- (57) 岡田甫(千葉治、一九〇五〜一九七九) が主宰する会員制の雑誌で、川柳を始めとする江戸時代の軟文学研究誌。書信で述べるように松枝茂夫も武藤禎夫の紹介で購読し、「向臺樓人」のペンネームで投稿し、周作人も「周啓明」の名で短文を寄せている。松枝と武藤の交流から、『中国笑話選』(江戸小咄との交わり)(東洋文庫一九六四年刊) が生まれた。
- (58) この年六月より順次岩波書店から『魯迅選集』は刊行された。
- (59) 『やんちゃ孤独』(東久邇稔彦著、読売新聞社一九五五年刊、読売文庫)、『東京むかしむかし』(朝日新聞社一九五五年刊) 李希凡、藍翎による兪平伯の紅樓夢研究批判を指す。
- (60) 『主婦手記』(麗諦等著、通俗文藝出版社一九五五年刊)
- (61) 『周作人年譜』一九五六年四月一五日に岩波書店から届いた旨記録がある。
- (62) 『苦茶庵打油詩補遺其十三』(『知堂雜詩抄』岳麓書社一九八七年刊)の「當日披裘理釣絲。浮名贏得市人知。忽然悟徹無生忍。垂老街頭作餅師」を指す。
- (63) 雑誌『狂言』昭和三二年五月号(名古屋狂言共同社同人)を指すものと思われる。この雑誌には古川久「周氏訳の『狂言十番』と『日本狂言選』」を掲載している。
- (64) 注記(64)の文章に対する謝礼。古川久は一九四一年に訪中した際に「狂言十番」(一九二六年刊)の存在を知り、随分手を尽くしたが入手できなかったと述べていたため、周作人は一冊贈りたいと申し出た。書信では確認できないが、これと前後して古川久は「狂言の中国訳」(『天地位』一九五三年四月号)を書いて、謝六逸による狂言訳を紹介しているほか、狂言特集号を組んだ『文学』(岩波書店一九五六年七月号)には「狂言研究文献目録」を発表している。さらに、この号の『文学』には今村与志雄(『紹介』周作人による狂言の中国訳について)も掲載されており、周作人の許にも届けられたのはほぼ間違いなさだろう。
- (65) この書籍購入依頼は日付のないメモ用紙に書かれているため、日時は確定できないが、松枝茂夫自身の手で整理された順序に今は従う。森島守人「陰謀・暗殺・軍刀…一外交官の回想」(岩波新書一九五〇年刊)、同「真珠湾・リスボン・東京…統一外交官の回想」(岩波新書一九五〇年刊)
- (66) それぞれ正確には、アサヒ写真ブック、講談社アート・ブックス

- (68) 注記(64)にあるとおり、『狂言十番』を贈られた返礼に贈ったものと思われる。
- (69) 魯迅逝去二〇周年を記念して錢稻孫、王古魯とともに招かれたもの。直接には人民文学出版社副社長を勤めていた楼適夷の配慮で実現した。この当時の事情は楼適夷「我所知道的周作人」(前掲書)に言及がある。
- (70) 森銑三著『星取掉・我が国の笑話』(積善館一九四六年刊)
- (71) 「魯迅逝世二十周年紀念」は建国後初めて開かれた魯迅記念のセレモニーであったため、かなり盛大に行われ、まず十月十四日に上海で魯迅の墓を万国公墓から虹口公園(魯迅記念館)へと移葬する儀式が行われ、一般市民も含めて二千人が参加した。十月十九日には北京で十八カ国からの海外からの来賓も招き、周恩来の臨席を仰ぎ、郭沫若の司会のもと、盛大に記念式典が挙行された。周作人は公式の場には出席しなかつたようだが、日本側の要望で別途懇談の席が用意され面談したという(楼適夷「我所知道的周作人」前掲書)。周作人は公式の場には出席しなかつたようだが、日本側の要望で別途懇談の席が用意され面談したという(楼適夷「我所知道的周作人」前掲書)。周作人は公式の場には出席しなかつたようだが、日本側の要望で別途懇談の席が用意され面談したという(楼適夷「我所知道的周作人」前掲書)。周作人は公式の場には出席しなかつたようだが、日本側の要望で別途懇談の席が用意され面談したという(楼適夷「我所知道的周作人」前掲書)。周作人は公式の場には出席しなかつたようだが、日本側の要望で別途懇談の席が用意され面談したという(楼適夷「我所知道的周作人」前掲書)。
- 談の様子は、長興の『わが心の遍歴(筑摩書房一九五九年刊)』に言及がある。曰く「周氏は相変わらずギリシャ神話を、錢氏は『万葉』をそれぞれ訳し続けていて、そんなに不自由ではありませんと答えた。本音はなかなか吐かぬ用心深い人々なので、こつちもそれ以上立ち入っては聞かず別れ」(四八六頁)たという。このほか帰国後の感想を綴った文章としては、
- 里見淳「魯迅二十周年に臨んで」(『毎日新聞』一九五六年十月二十七日)
- 「床屋政談」(『世界』一九五七年一月号)
- 「古今ともに観る」(『文藝春秋』一九五七年一月号)
- 長興善郎「魯迅祭」だより(『朝日新聞』一九五六年十月二十七日)
- 「中国についての夢」(『世界』一九五七年一月号)
- 長興善郎ほか「中共と東西ドイツ(座談会)」(『心』一九五七年二月号)
- (72) 松枝茂夫が担当した『魯迅選集』第十二巻(岩波書店一九五六年刊)一二九頁、魯迅日記一九二五三月二日の項にある「馬理子」についての指摘。
- (73) 公25とは日本郵趣協会などが切手の売買に用いてきたカタログ番号で、「公」とは公園シリーズの切手、「記」とは記念切手のこと。
- (74) 当時の副社長は楼適夷。注記(69)を参照。
- (75) 朱居易『元劇俗語方言例釋』(上海商務印書館一九五六年刊)であろう。王古魯からの書簡数通も松枝茂夫のもとに保存されている。その往還書信によると、松枝茂夫からは返礼に『紅樓夢』(岩波文庫)十二巻が贈られた。
- (76) 曹聚仁『文壇五十年』『魯迅評傳』とともに、本人より惠贈を受け、松枝に転送したもの。『周曹通信集』(香港南天書業公司一九七八年刊)二二三頁、および四四、四五頁、一八七頁で詳しく言及している。なお、同通信集はネット上で翻刻されており、参照させていただいた(肖毛——看云居：http://5352919.bloghexun.com/9669238_d.html)
- (77) 松枝茂夫自身の整理では、19570311Zとこもにファイルされていたが、内容から判断して移した。
- (78) この年の春、周作人は高血圧による血管痙攣で翻訳も休み、一九五九年春から再開した。

- (79) この書籍購入依頼メモは、松枝茂夫自身の手で前の書簡(19570207Z)とこの書簡の間にファイリングされていたが、内容からすると、この書簡に属するものと判断される。
- (80) 岡田甫は早稲田の古本屋街でオランダ書房という古書店を営んでいた。
- (81) ここで挙げる字句から判断すると、『周作人年譜』の一九五七年三月三日に周甲甫へ贈ったとされる詩と同一であろう。
- 其一
 打架・妖精未是憨、任他游戲與心安。
 摩登伽女如相遇、玉體橫陳取次看。
- 其二
 萬紫千紅都是許、繁枝密葉已交加。
 老僧已是沾泥絮、炳燭還看未摘花。
- (82) 『心』(一九四八年七月)一九八一年七月)は保守主義色の濃厚な文芸雑誌で、学習院出身の知識人を中心とするサロン「生成会」が編集発行を担当した。編集委員には安倍能成、和辻哲郎、武者小路実篤、長興善郎らが参加しており、里見弴も委員の一人。
- (83) 角田文庫は角川文庫の誤記。『俳句歳時記』(角川書店編)春、夏、秋、冬、新年の五分冊で構成される。
- (84) この書信には松枝茂夫自身のメモが付され、「十二月十八日の誤り」と記されており、その判断に従った。
- (85) 「子供文庫」ではなく、「ともだち文庫」
- (86) 封筒がないため月日のみで年が確定できないが、文中の『奇書』(有光書房一九五八年刊)から推定した。
- (87) この書簡に付属する購入依頼書目に見える書名の『川柳小咄集』は、一九五八年五月十一日付書簡で既に購入して北京に発送した旨述べられている。松枝茂夫自身の整理では、この購入依頼書目を五月三十一日書簡としていたが、明らかに誤りと認められるので、五月十一日の直前の書簡である四月九日に移した。
- (88) 原三七は著書『中国戯劇脚色研究史上の一断面・姚梅伯と王静安』(書籍文物流通会一九六一年刊)の略歴に拠れば、東京帝国大学支那文学科卒、北京大学文学院教授となるも敗戦により職を辞して、日本に帰国し、書籍文物流通会を経営する。
- (89) 兪平伯校訂『紅樓夢八十回校本』のこと、一九七二年から刊行された岩波文庫版『紅樓夢』の改訳に用いられた。
- (90) 宮尾しげを、比企修共著『日本小話集』(高文社一九五六年刊)
- (91) 社会党の国会議員。一九五七年、訪中して周恩来と会談した。
- (92) 『宝のひょうたん』(張天翼原著、君島久子との共訳、岩波少年文庫一九五八年刊)
- (93) 『穴にかくれて十四年』(中国人俘虜劉連仁の記録)(歐陽文彬著、三好一訳、新説書社出版部一九五九年刊)
- (94) 『青春の悲歌』啄木の詩歌鑑賞(遠地輝武ほか著、ナウカ社一九五一年刊)
- (95) 日付は封筒にある日本郵便の消印によるが年度は確認できず、内容によって推定した。
- (96) 『文学研究所専刊』(一)〜(4)は独立した単行本。何其芳著『論・紅樓夢』、何其芳著『沒有批評就不能前進』、余冠英他著『古典文學

研究中的錯誤傾向」、毛星著『論文學藝術的特性』。すべて人民文学出版社一九五八年刊。

(98) 北京大學中國語言文學系編『文學研究與批判專刊一〜四』(人民文学出版社)

これは注記(96)の書と重複。

(99) 書簡には北京市中国書店からの返信も添付され、文面は以下の通り。

北京市中国書店(59) 京中古字第116號(地址:東西南大街180號)

周啓明同志

兩奉大函收悉、承詢文學研究所專刊等四書、查除『閨紅樓夢隨筆』全一冊、定價六角以外、其餘三種均無存書、我店現有人民文学出版社出版『文學研究集刊』已出五冊、共計定價三元九角八分、『文學遺產增刊』已出六冊、共計定價五元二角五分。用特介紹、是否適合需要、請酌之、專復併致

敬禮

啓

5. 7

この書簡は松枝茂夫の整理によると、一九五八年五月とされるが、文中に見える『閨紅樓夢隨筆』は一九五九年四月の松枝書簡で購入依頼されたものであるから、正しくは一九五九年の五月となる。手紙の内容からしても、周作人が西鶴の翻訳を引き受けたと述べるのは一九五九年二月の書簡であり、五八年では整合性がとれない。

(100) 松枝茂夫・今村与志雄編『歴代隨筆集』(平凡社一九五九年六月)

(101) 鄭子瑜と周作人の縁は一九三〇年代の雑誌『逸経』に寄稿した頃から始まるようだが、実質的な交流は一九五八年頃に周作人の雑詩や黃遵憲『日本雜事詩』について問い合わせたところから交流が始まった。さらに、その周作人を介し、一九六一年には、さねとうけいしゅう(実藤惠秀)に自著『人境廬叢考』(商務印書館新加坡分館一九五九年刊)を贈ったところ、さねとうけいから早稲田大学での共同研究の申し出を受け、一九六二年に短期訪問(一週間)で研究方法を話し合い、その後、一九六四年四月から九ヶ月間にわたり早稲田大学語学教育研究所の客員教授として在籍した。この間および日本に残る大河内文書(黄遵憲と大河内輝声との筆談録)の整理校訂を行った。当時の状況については『鄭子瑜墨線録』(作家出版社一九九三年)所収の『在大河内』など詳しく詳し。

(102) この書名リストは松枝茂夫の手で年不詳に分類されていたが、内容と書信用箋の種類から判断した。

(103) 『狂言の世界』(現代教養文庫一九六〇年刊)所収の最終章「二、海外の狂言」では、海外における狂言の翻訳状況を紹介し、狂言研究が盛んになる前から翻訳に取り組んだ周作人の慧眼を褒め称えている。文中、古川は毎日新聞に寄せた自らのエッセイを引用し、周作人から中国語訳『狂言十番』(一九二六年刊)の惠贈を受けたと述べており、19560615Zでの周作人の言葉と符合する。

(104) この書簡には松枝の手書きで「羽太信子 死 昭和37年4月8日(朝日、昭和37. 6月7日鮑耀明)」とある。注記(4)を参照。

(105) 周維群「曹雪芹故居和墳地在那裡?」(『北京晚報』一九六二年四月一八〜二一日)を切り抜いたもの。

(106) 時期的に考えて、この指摘は『魯迅選集』の改訂版(六四年八月刊行の)を見て指摘したものであろうが、「羽太」の読み自体は初版本か

ら「はだ」とされていた。(この項は飯倉照平先生からのご教示による)

(07) 東方文庫は誤りで東洋文庫より刊行された『中国笑話選』(一九六四年刊)を指す。

(08) 目加田誠は当時九州大学教授(翌年より早稲田大学教授)で、訪中学術代表団の一人として北京を訪れていた。一九三三年から二年間にわたり北京に留学した目加田は錢稻孫の家に寄宿し、周作人とも面識があった。そのため訪中の際に錢稻孫らとの面会を希望していたが、実現しなかった。戦前の留学については「錢稻孫先生のこと」(『洛神の賦』武蔵野書院一九六六年刊)、訪中時の様子は「永泰公主の墓」(同上)に述べられている。

(09) 注記(08)のとおり、当時鄭子瑜は早稲田大学で共同研究中であったため、周作人に再度紹介状を依頼したものと思われる。19641215 Zに同封されたため、茶色の小さな封筒には切手が貼られていない。松枝茂夫の手で一九五九年にファイリングされていたが、六四年に改めた。

(10) 当時、平凡社の編集者であった酒井春郎氏を指す。周作人に届けられた内閣文庫本『笑府』の写真版作成に協力してくれたため、謝意を述べたもの。(この項目は飯倉照平先生からのご教示による)

(11) 『蜀碧・嘉定屠城紀略・揚州十日記』(東洋文庫一九六五年刊)